

# カンボジアおよび南ベトナムにおける 工業の現状調査報告書

メコン河サンボール地点開発計画  
電力市場調査報告書  
(別冊報告Ⅶ-2)

昭和40年12月

海外技術協力事業団

國際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 19	109
登録No. 00965	64
	KE

# カンボジアおよび南ベトナムにおける工業の現状

## 目 次

まえがき	1
1. カンボジア工業の現状	2
1.1 概 要	2
1.2 工業生産工場の推移および建設状況	4
1.3 鉱工業その他の生産状況	7
1.3.1 工業原材料	8
(a) 塩	8
(b) 綿 花	9
(c) ゴ ム	9
(d) 鉄 鉱 石	10
(e) 燐 鉱 石	10
(f) 石 灰 石	10
(g) 珪 石	10
(h) その他の鉱物資源	10
1.3.2 国 営 企 業	11
(a) Kg. Cham の繊維工場	11
(b) Chhlong の製紙工場	11
(c) Dey Eth の合板工場	12
(d) Chacrey Ting のセメント工場	12
(e) 煉瓦工場 ( Phnom Sâr およびKampot 州 Bokor )	13
(f) 製作所 ( Kg. Thom 州 Balaing )	13
1.3.3 その他の企業	13
1.4 工業開発に対する促進策	17
1.4.1 国家設備金庫 ( CNE ) の設立	17
1.4.2 王室合作社 ( OROC ) の設立	18
1.4.3 外資導入法	18
1.4.4 国家企業局 ( OFFNET ) の設立	19
1.4.5 国内工業製品の保護	20
1.4.6 貿易の国営化	20
1.4.7 国内工業優遇措置	20

JICA LIBRARY



1048242[0]

2	南ベトナム工業の現状	21
2.1	概 要	21
2.1.1	第1次5カ年計画	21
2.1.2	第2次5カ年計画	22
2.1.3	工業開発の推移(実績)	27
2.2	工業生産概況	29
2.2.1	繊維工業	29
2.2.2	ゴム製品工業	33
2.2.3	製糖業	34
2.2.4	硝子工業	36
2.2.5	製紙工業	36
2.2.6	セメント工業	37
2.2.7	化学工業	38
2.2.8	木材および木製品工業	40
2.2.9	金属ならびに機械工業	40
2.2.10	食料品およびその他工業	40
2.3	工業開発のための諸条件	43
2.3.1	工業原燃料	43
(a)	石灰石	43
(b)	珪砂	43
(c)	塩	43
(d)	磷鉍石その他	43
(e)	ゴ ム	45
(f)	綿 花	46
(g)	ケ ナ フ	46
(h)	木材および木炭	47
(i)	石 炭	48
(j)	石 油	49
(k)	工業用水	49
2.3.2	労 働	50
2.3.3	工業開発促進のための施策	50
(a)	工業開発センター(CDI)の設立	51
(b)	ベトナム工業開発金融会社(SOFIDIV)の設立	51
(c)	ベトナム工業地帯開発会社(SONADEZI)の設立	52

## カンボジアおよび南ベトナムにおける工業の現状

### まえがき

サンポール地点開発計画調査の一環として、われわれは電力市場の調査を担当し、関係国であるカンボジアおよび南ベトナムにおける産業経済発展の動向およびこれによる電力需要を見極めるための調査を実施することとなった。

われわれは、この調査を実施するに当つては、まず両国における経済発展の重要な基盤となる現状における工業の実態を把握するための手段として、工業生産工場の現地調査をもつてその手初めとした。しかしながら、限られた日数および人員により、各種工業の全般に亘る多数の工場を実地に調査することは不可能であつたため、各業種の主要な少数の工場についてそれらの現地調査を実施し、その結果は別冊の「カンボジアおよび南ベトナムにおける工場実態調査結果」として報告した。

本編は、このような調査を基とし、合せて両国の産業経済に関するできるかぎりの資料ならびに情報を収集し、電力需要の動向と密接な関係にある産業経済の発展ならびにその構造的変化を見極めるための最も重要な要素となる、両国の工業一般の現状および発展の可能性について取纏めたものである。

# 1. カンボジア工業の現状

## 1.1 概 要

カンボジアは、1954年に独立国となつたのであるが、フランス植民地時代のカンボジアには、米作、コシヨウおよびゴムプランテーション等の農業と Tonle Sap 湖における漁業以外には、鉱業は皆無であり、若干の工業の規模は殆ど家内工業的規模であり、めぼしい工場としては従業員200名程度のフランス、インドシナ醸造会社(Phnom Penh)一つに過ぎなかつた。

このような状態において、完全独立後のカンボジアが、いかに経済社会開発を必要としたかは、想像に余りあるものがある。

カンボジア政府は、取り敢えず1955年に経済社会開発2カ年計画を樹立し、国家の生産拡大と社会施設の開発に努力するとともに、来るべき大規模計画の予備的、準備的計画としてこれを推進することとした。

本計画を実施するについては「国家計画開発最高会議」(Conseil Supérieur du Plan et du Développement National)を設立し、計画実施に関する一切の責任をこれにもたせることとし、また、これの監督の下に財政面を総合的に処理せしめるために「カンボジア設備金庫」(Caisse Nationale d'Équipement du Cambodge)を設立した。

カンボジアの経済は、根本的には米とゴムに基礎をおく純粋な農業経済であつたのであり、この2カ年計画における生産部門においては、まず米の生産増強と品質の改良および牧畜、海洋漁業、タバコ、コシヨウ、とうもろこし栽培などを拡張発展せしめる政策をとつた。

結局、本計画は当初1956～1957の2カ年計画であつたが、6カ月延期されて1958年6月に終了したのであつたが、所要資金のうち実に83%余にも及ぶ外国援助により、生産部門においては90%程度の低い達成率にとどまつたとはいえ、将来の経済発展の基盤となる建設部門などでは114%にも達する高い達成率を示し、次の本格計画である第1次5カ年計画に対する或程度の光明を見出し得たといふことができる。

### 第1次5カ年計画(1960～1964年)

1958年後半から1959年にかけて準備された第1次5カ年計画の特色は、まず第1に前2カ年計画における大きな立ち遅れを挽回するために生産部門において最大の努力が払われた。本計画においては、前計画における所要資金のうち実に83%にも及んだ外国援助を、15%程度にとどめようとしたこともその特色の一つといふことができる。

本計画を鉱工業部門についてみると、

(a) Kg. Thom の北方 Phnom Deck にある鉄鉱山を開発して Kg. Thom に年産約45,000

tonの銑鉄生産のための高炉建設を計画した。

(b) Kampot 州の Tuk Meas の 磷鉍を開発し、年間10000~20000 tonの磷酸肥料の製造を計画した。

(c) その他の鉍山物としては、金、マンガン鉍、水晶、銅、ジルコン、サファイヤ、珪砂などの調査を計画した。

(d) 工業部門においては、新しく建設または生産拡大するものとして、次のような工場を考えた。すなわち、合板工場、紡績織工業、製紙工場、精糖工場、肉および野菜の缶詰工場、精油工場、セメント工場、トラクター組立工場などがその主なものである。

工業部門における基本的な方針は、国産可能なものの輸入を抑止するか停止することによつて、保有外貨を節約することであり、5年後の生産目標を次の通りとした。

〔第I表〕 第1次5カ年計画の生産目標

生産品名	単 位	1958実績	1964計画
綿織物	1,000m	933	10,000
絹織物	"	5,100	10,000
ジュート・バッグ	ton	-	3,000
セメント	"	-	50,000
磷酸肥料	"	-	10,000
鉄鋼	"	-	4,500
紙	"	300	5,000
精白糖	"	-	10,000
合板	m <sup>3</sup>	-	900,000
ビール	1,000kl	-	80
アルコール	"	90	100
医薬品	ton	-	900
石けん	"	554	1,000
ベイント	"	158	250
ゴム製品	"	40	100
タイヤ・チューブ	"	5.58	700
アルミ製品	"	90	165
鞣皮	"	140	230
巻たばこ	100万本	1,000	2,000
マツチ	100万箱	3.6	5
自動車組立	台	720	2,000
酸素	1,000 m <sup>3</sup>	3.6	70

## 1.2 工業生産工場の推進および建設状況

入手し得る統計資料が少なく、また不完全であるため、各種工業の生産量その他について詳細に知ることは困難である。

以下入手し得た資料の範囲においてカンボジアにおける生産工場の概要について述べることとする。

まず、カンボジアにおける業種別工場数の推移をみると第2表の通りである。

〔第2表〕カンボジアにおける主要工場数の推移

業種別	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962
精米	543	673	765	931	1,057	1,130	1,204	1,262
醸造	12	12	12	12	12	12	12	12
煙草	3	3	3	3	3	3	3	3
製材	22	25	29	46	68	82	84	144
マツチ	1	1	1	1	1	1	1	1
硝子	14	15	17	19	22	25	25	26
木炭	130	138	140	162	176	178	178	180
発電所	17	17	17	17	17	17	17	17
煉瓦・瓦	149	164	170	181	186	186	187	189
皮革	8	8	8	8	8	8	9	9
石鹼	12	13	14	16	20	24	24	25
製塩	24	26	27	24	28	34	36	37
醬油	10	15	16	20	21	21	21	21
ソーダ水	11	12	14	17	19	31	21	21
印刷	15	15	15	15	15	15	21	31
織物	41	41	45	45	45	45	47	47
ゴム靴	-	-	-	-	4	6	13	18

〔出典〕 Annuaire Statistique du Cambodge

また、工場の操業認可状況は第3表の通りである。



〔第9表〕 工場の業種別操業認可状況

業 種 別	1961年末	1962年		1963年
	現 在	前 半 期	後 半 期	前 半 期
精 米	1,293	13	67	30
搾 油				1
酒 造 (アルコールを含む)	12			
食 料 品			8	2
た ば こ 乾 燥		10	14	6
製 材	97	5	12	6
煉 瓦				1
一 般 機 械		2	13	1
金 属 加 工				1
自転車・オートバイ・モーター				1
タ イ ヤ				2
電 気 関 係				1
発 電 設 備		2	5	1
プラスチック製品		1	6	2
製 革				1
石 け ん				1
印 刷				4
製 紙				3
そ の 他		11	21	4
計	1,402	44	146	68

〔出典〕：L/ Qeuvre du Sangkum Reastr Niyum

さらに、建設中または計画中の主要な工場には以下のようなものがある。

(a) 機械工場（中共の援助による）

中共の経済・技術調査団による調査報告書が完成しており、中共の技術者グループにより計画実施の予定である。

(b) 製鉄コンビナート（中共の援助による）

製鉄用炭の不足のため建設を断念した。これに代えて、Battambang における小規模機械織工場の建設、およびガラス工場と搾油工場の設備更新を検討中である。

(c) Kg. Tram (Kg. Speu 州) の精糖工場

仮設備を10 ha の敷地に建設中である。これは、チェコの借款援助によるもので、

年間生産能力は甘蔗糖15,000tを予定している。原料甘蔗は在来のもものが含有糖分少なく、好適でないため、工業省は直営農場(約500ha)で原料甘蔗の自給をはかる計画を進めている。

この外にも、純粋な民間企業としてパーム糖の精製工場設立計画が具体化しつつある。

(d) Takmau (Kandal州)のタイヤ工場

10haの敷地で建設工事を開始している。これもチェコの借款援助によるもので、年間生産能力は自動車用タイヤ135,000本で、可成り大規模のものである。

(e) Sihanouk Villeのトラクター組立工場

2haの敷地で建設工事を開始し、Sihanouk Ville港の後背地に、既に建屋の工事を終了している。この工場は資本金43000000リエルで、工員50名、年間組立能力600台といわれている。

(f) ジュートバッグ工場 (Battambang)

資本金50000000リエルで、Battambangに半官半民のジュートバッグ製造会社の設立が準備されている。これは政府60%、民間30%、外資10%の出資比率で計画されたものであり、1963年初めから外資、民間の株主募集が行なわれたが、その応募成績は良くなく、設立が遅れている。

ジュートバッグ工場の建設は、5カ年計画にも入っており、この国第1の輸出産品である米の輸出用として必需のものであるため、年間2,000,000US・ドル近いジュートバッグの輸入が行なわれているところから、外資節約のためその早期設立および生産開始が待たれるところである。

(g) Andaeuk Hep (Bettambang)の操綿工場

これは、王室合作社(OROC)とフランスの経済・技術援助使節団によつて計画されているものである。出資金は王室合作社が4,000,000リエル、フランスの資金援助5,000,000リエルで、政府民間の合弁会社となるものである。

これは、88台の“Lummus”型操綿機および“Pignarre”型のプレスを設備し、処理能力1日22時間の操業で40~50tonの計画である。この工場は乾期5カ月間の処理能力は綿実4,000~5,000ton(綿花栽培面積3,000~4,000haに相当)となる。

(h) 紡績工場

1961年末に現在稼働中のKg. Chamの国営繊維工場とほぼ同規模の工場が計画されたが、諸種の問題のため、一旦立消えとなつたが、最近に至つてこれが具体化の傾向があるといわれている。

一方、1964年7月1日に、Phnom Penhにおいて、中共政府代表と工業大臣との間で調印された中共援助協定により、新たに紡績工場をBattambangに設立するこ

ととなつた。

(i) ガラス工場

ソ連援助により、Phnom Deck の鉄鉱山を開発し、製鉄所を建設する計画が立てられたのであるが、これは石炭資源のないことから立消えとなつた。

ソ連は、その代りとして、他の数工場の建設を約束しているといわれているが、中にはガラス工場が含まれている。

カンボジアには、殆ど未開発の硅砂資源があるので、ガラス工業の開発は特に有望である。

1.3 鉄工業その他の生産状況

鉄工業生産状況に関する統計資料は非常に貧弱であり、全般的にその概要を把握できる統計資料は入手することはできない。

Annuaire Statistiques du Cambodgeによる一般工業生産の推移は第4表の通りである。

〔第4表〕 工業生産高の推移

年 度	米のアルコール 1000ton	氷 1000ton	炭 酸 水 1000ℓ	シロップ 1000ℓ	塩 ton
1950	77	24.0	—	—	12,587
51	91	27.5	—	—	33,199
52	93	34.8	—	—	51,177
53	92	35.3	2,693	—	26,648
54	89	32.3	3,232	—	41,160
55	89	31.4	4,043	335	86,631
56	92	30.3	5,000	370	23,659
57	90	33.4	6,600	35.0	61.2
58	92	35.3	7,360	63.6	63,808
59	95	42.6	7,956	82.8	49,510
60	99	72.5	8,489	88.8	37,060
61	87	26.2	6,077	63.6	53,451
62	68	37.6	5,400	71.9	32,157

以下、入手し得た資料ならびに情報により、主要なる鉄工業生産の概要について述べる  
こととする。

1.3.1. 工業原材料（一次産品）

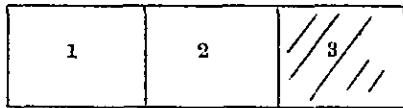
a) 塩

カンボジアにおける製塩は、大部分 Kampot 州の海岸において行なわれている。

Kampot 地方における塩田の所有者は大小合すると 87 名にも及んでいるが、そのうち主要なものは 36 名である。この地方における塩田は 3 地域に分れており、Kep の海岸に最も大きなものがある。

塩田の面積は、3 ステップの塩田全体では 3,300 ha におよび最終ステップの塩田の面積は 200 ha である。

※ 「カンボジア国灌漑および森林開発計画調査報告書」（租稿）1964年（海外技術協力事業団）によればカンボジアの塩田面積は 3,963 ha となつている。



$$(1) + (2) + (3) = 3,300 \text{ ha}$$

$$(3) = 200 \text{ ha}$$

この地方の塩の出荷量は、平均 40000 ton/年であつて、カンボジアにおける年間消費量の殆ど全部を賄つている。

塩田の操業期間は乾期の 5 カ月間である。

製品には 2 種類のものがあり、その 1 つは、最終ステップの塩田において太陽熱のみにより結晶させ、これを最大 5 m/mφ 位に砕いたものであり；他の 1 つは最終ステップの塩田における濃縮塩水を Boiling して細粒の塩としたものである。

カンボジアにおける塩の生産状況は第 5 表の通りである。

〔第 5 表〕カンボジアにおける塩の生産状況

年 度	生 産 量 (ton)
1950	12,587
1951	33,199
1952	51,177
1953	26,648
1954	41,160
1955	86,631
1956	23,659
1957	612
1958	63,808
1959	49,510
1960	37,060
1961	53,451
1962	32,157

現在のところ塩の消費は生産を下廻つて、過剰生産となつている。

最近におけるストック、生産、出荷、出荷税の状況は第 6 表の通りである。

〔出典〕Annuaire Statistique  
du Cambodge, 1962

〔第6表〕

月 別	ストック	生 産	合 計	出 荷	出 荷 税
1964年	t	t	t	t	リエル
1月	103,717	750	104,467	4,056	1,216,800
2月	100,515	4,995	105,510	2,843	855,900
3月	102,656	11,025	113,681	3,171	951,100
4月	110,540	10,882	121,422	1,905	571,500

〔資料源〕現地出荷事務所

品質の面で若干の問題があるといわれているが、現状でも相当のストックをもっており、今後これが工業的利用を図るべきであろう。

## b) 綿 花

最近年における棉花の作付面積および生産量は第7表の通りである。

〔第7表〕

年 度	作 付 面 積	生産量(綿実)
1959	1,800 <sup>ha</sup>	600 <sup>t</sup>
1960	3,600	5,800
1961	17,400	20,600
1962	4,500	3,600
1963	不 明	不 明
5カ年計画の 目標1960 1964	10,000	15,000

〔出典〕: L' Oeuvre

du Sangkum

Reastr

Niyum

現在の棉花の栽培地域は、一般的にメコン河沿いの斜面、Kg. Cham および Bat tambang 州の Andoeuk Hep の赤土地帯である。

現在稼働中の Kg. Cham の国営繊維工場は国産の棉花を使用しているが、今のところこれに対して十分な棉花の供給力をもっているとはいえず、また上述の通り、繊維関係工場の建設計画があるので、一層の増産が期待される。

## c) ゴ ム

最近年におけるゴム・プランテーションの面積およびゴムの生産量は第8表の通りである。

〔第8表〕

年 度	ゴム・プランテーションの面積	生 産 量
1 9 5 9	3 5, 9 7 4 <sup>ha</sup>	3 4, 1 2 8 <sup>ton</sup>
1 9 6 0	3 7 7 5 7	3 6, 7 7 9
1 9 6 1	3 9, 5 0 9	3 9, 6 2 9
1 9 6 2	4 1, 6 8 0	4 1, 1 8 3

(出典)

Annuaire Statistique  
du Cambodge

ゴムの生産量の大部分が輸出に廻されており、国内消費としては、最近ようやく操業を開始したゴムサンダル、自転車用タイヤ工場等による消費がある。なお、上述の通り、可成り大規模の自動車用タイヤ工場の建設が計画されており、国内消費も徐々に増加するものと考えられる。

加工技術の向上により、生ゴムの輸出に合せて、ゴム製品輸出の希望がもたれる。

## d) 鉄 鉱 石

Kg. Thom 州の Phnom Deck に約 5,000,000 ton の鉄鉱石の埋蔵があるといわれ、これによる銑鉄の生産が計画されているが、輸送、燃料等の問題のため未だ実現をみていない。

## e) 燐 鉱 石

Kampot 州の Tuk Meas に燐鉱石の埋蔵があり、その開発により燐酸肥料の製造が計画されているが、この計画は一部フランス資本との合併によるもので、その外資導入が 1963 年 6 月に認可されている。

## f) 石 灰 石

石灰石は可成り豊富に賦存しており、Kampot 州の Chacrey Ting のセメント工場で既に利用されている石灰石山は、年間 500,000 ton の生産で約 60 年の操業に耐える埋蔵量があるといわれており、外にも数カ地点に石灰石の埋蔵が発見されており、小規模ながら建築用その他用としての石灰の焼成も行なわれている。

セメント工業の拡大およびカーバイト工業の開発も可能であろう。

## g) 珪 石

珪砂も比較的豊富であり、Kg. Som の海岸に産する珪砂は、小規模ながら硝子工業において既に利用されており、これを利用する他の工業の開発も可能であろう。

## h) その他の鉱物資源

Pursat の近くにボーキサイト、Kg. Speu の近くには螢石、Snoul の近くには石炭、その他若干の鉱物資源の埋蔵が発見されているが、これらの工業的利用の可能性に関しては未だ未確定である。

### 1.3.2 国 営 企 業

#### (a) Kg. Cham の織維工場

国営織維工場は、中共の援助により建設され、1960年4月に操業を開始した。年間原糸670 ton, 未晒綿布5,188,000 m (90 cm巾)の生産能力をもっている。

国産原綿を原料とする建て前であるが(年間所要量750 ton)1963年度は国産原綿不足のため日本から原糸を輸入した。

最近の生産状況は第9表の通りである。

[第9表]

	1962年 1月1日~4月30日	1962年 5月1日~10月31日	1962年11月1日~ 1963年4月30日
綿 糸 (4.5 Kg 梱)	60000 (270 ton)	78000 (350 ton)	77760 (350 ton)
綿 布 (1,000 m)	1,700	1,156	1,315

[出典] L' Qeuvre du Sangkum Reastr Niyum

なお、1964年度の生産は綿糸700 t, 未晒綿布5,000,000 mといわれており、生産は除々に増加の傾向にあるようである。

同工場設立以前の3カ年(1958, 1959, 1960)平均と設立以後の2カ年(1961, 1962)をくらべると、綿製品の平均輸入減少額は800,000リエルとなつている。しかしながら、なお相当の綿製品の輸入があり、同工場がフル生産しても国内需要の20~25%程度であり、全面的に国内自給を考えるならば、なお2~3の同程度の工場が必要であるが、この点から上記の紡績工場の新規建設計画の早期実現が待たされるところである。

#### (b) Chhlong の製紙工場

これも、中共援助により建設された工場であり、1961年5月から操業を開始した。現在のところカンボジアにおける唯一の製紙工場である。国内産の竹および稲わらを原料とし、年産能力は、5,000 ton である。

最近の生産状況は第10表の通りである。

[第10表]

	1962年 4月1日~4月30日	1962年 5月1日~10月31日	1962年11月1日~ 1963年4月30日
紙および ボール紙	試 験 期 間	747 <sup>ton</sup>	700 <sup>ton</sup>

[出典] L' Qeuvre du Sangkum Reastr Niyum

同工場生産開始以前と以後の2カ年間平均の紙輸入額の変化は、

以前	以後	差引
0 0 0 0 0 0 0 リエル	7 0 0 0 0 0 0 リエル	2 0 0 0 0 0 0 リエル

で、輸入の減少額は2 0 0 0 0 0 0 リエルに上つた。

同工場の生産品は中級品の白紙、新聞紙、包紙、厚紙であり、上質紙の輸入は依然旺盛である。

学校教育の普及が主な動因となつて、この国の紙消費量は近年急激に増加しつつあるといわれ、当工場の推定によると、1956年当時の紙消費量5,000 ton/年に対し、最近では約10,000 ton/年に倍増した模様である。

このような状況により、1日35～40 tonの生産能力をもつ工場をPhnom Penh付近に建設する予定であるといわれている。

(c) Dey Eth の合板工場

これも、中共援助により建設された工場で、カンボジアにおける唯一の合板工場である。1960年9月に操業を開始し、年産90,000 m<sup>3</sup>の能力をもっている。

最近の生産状況は第11表の通りである。

〔第11表〕

	1962年 4月1日～4月31日	1962年 5月1日～10月31日	1962年11月1日～ 1963年4月30日
合板 (m)	142,160	142,875	109,405
大豆油 (t)	6,000	-	-

〔出典〕 L' Oeuvre du Sangkum Reastr Niyum

当工場は、操業開始後半年にして早くも売行き不振のため、経営困難に陥つたよう  
で極最近の生量は36,000 m<sup>3</sup>/年程度である。

輸出実績としては、1964年10月に中共向けに1回、10,000枚があるだけ  
であり、国内需要としては家具用および壁板としての用途があるが、もともとこの国  
の合板に対する需要層が薄く、製品の品質が優良でないことと相俟つて販売成績が上  
らない理由となつている。

勿論、合板は輸入禁止品目に指定されており、政府は各官庁、学校等に対し、この  
工場の製品を極力購入利用するよう要望を出すなどのことがあつた。

国外、国内とも今後の販路開拓が当工場にとつて最も重要な問題であろう。

(d) Chacrey Ting のセメント工場

これも中共援助による工場で、Kampot州のChacrey Tingに所在し、1964  
年10月に操業を開始したこの国における唯一のセメント工場である。

カンボジアにおけるセメント需要は年々増加しており、1961年には11,000



ton, 1962年には170,000 ton, 1963年には約190,000 ton 輸入している

当工場は年産500,000 tonを目標にしているので, 当工場の操業により国内需要の約1/4を自給し得ることになる。

原料の石灰石は比較的豊富であるためセメント工業は有望産業の一つといえることができるが, 当工場においてはセメント焼成用および自家発電用の石炭は現在のところすべて中共からの輸入に依存している。

(e) 煉瓦工場 ( Phnom Sâr および Kampot 州 Bokor )

カンボジアにおける最も大規模の煉瓦工場であり, その生産状況は12表の通りである。

(第12表)

	1962年 1月1日~4月10日	1962年 5月1日~10月31日	1962年11月1日~ 1963年4月31日
中空煉瓦	2,043 <sup>ton</sup>	1,224 <sup>ton</sup>	1,404 <sup>ton</sup>
一般煉瓦	1,999 <sup>ton</sup>	1,048 <sup>ton</sup>	1,458 <sup>ton</sup>

(出典) L/ Qeuvre du Sangkum Reastr Niyum

(f) 製材所 ( Kg. Thom 州 Balaing )

最近の生産状況は第13表の通りである。

(第13表)

	1962年 5月1日~10月31日	1962年11月1日~ 1963年4月30日
皮付丸太 m <sup>3</sup>	4,412	456
用材 m <sup>3</sup>	1,367	1,236
販売類 (100万)エル	2,778	2,770

(出典) L/ Qeuvre du Sangkum Reastr Niyum

1.3.3 その他の企業

(a) 織 維

織布工場は私企業による若干の小規模のものがあり, 主として手工業により伝統的な絹織物を生産している。

近代的な方式および規模による織維工業は上述の Kg. Cham の国営綿紡績工場のみである。

(b) 製 紙

上述の Ghhl ong の国営製紙工場が, 唯一の工場である。



(h) 清涼飲料水

主要な工場として、フランス統治時代からのフランス資本による Sté. de Brasseries et Glacieres de l'Indochine - B G I があり、これは Tiger 印のフルーツ・ジュースおよびビール、Bireley's, S E G I 印のソーダ水等を製造および（または）販売している。また、華僑資本であるが、米国の機械設備、技術、原料、マーク等を使用しているものが2工場ある。その一つは Pepsi Cola および Mirrinda 印のフルーツ、ジュース、ソーダ水を製造販売している。Cambodia Beverage Co. Ltd. で、他の一つは 7-Up および Coca-Cola を製造販売しているものである。

このような有名工場の外にも華僑資本による2工場があるといわれている。

以上の主要工場による生産量は約 2,400,000 箱/年である。

(i) 煙草

煙草工場は可成り古くから3工場がある。すなわち、「カンボジア煙草製造会社」( Manufacture du Cigarettes du Combodge ) 「クメール煙草製造会社」( Manufacture Khmère de Tabacs - M K T ) および「クメール煙草会社」( Cie Khmère des Tabacs - C K T ) の3会社があつていずれも Chak Angre に工場をおいている。

このうち、「カンボジア煙草製造会社」( Manufacture du Cigarettes du Combodge ) は純カンボジア資本であるが、大部分政府出資によるもので、会社役員4名のうちには政府代表2名が参加しており、実質上は国営企業である。

この工場の年生産量は紙巻タバコ約 750,000,000 本といわれており、工場には毎分 1,250 本の製造機械5台、毎分 120 箱のパッキングマシン、工員 150 名、事務員と季節労働者約 500 名を擁しているといわれている。

煙草のブランドは C O T A B , G L O B E , M E K O N G , その他である。

煙草に関しては国内3工場の紙巻煙草年間約 2.5 億本の生産で殆ど需要を満しており、輸入禁止品目にも指定されているが、街頭には英、米のたばこを初め、南ベトナム製のたばこまで半ば公然と売られている。

(j) マッチ

マッチ工場は、Manufacturer Khmère des Allumettes 一社のみである。華僑資本で 1,500,000 箱/月を生産している。マッチも輸入禁止品目に指定されており、煙草の場合と異なり、外国マッチの市販は全然みられない。

※ フランス系会社 Société des Eaux Gazeifiées de l'Indochine (インドシナ・ガス飲料水会社 = S E G I ) で、南ベトナムに工場を有する。

#### (k) ビニール製品

現在 2 工場があるといわれており、一社は年産 17 ton のプラスチック製品を生産しており、他の一社は 1964 年 1 月から操業を開始したもので、月間 25 ton のビニール加工能力を有し、ビニール・シートおよびビニール、フィルムを主に生産しているが、近くビニール被覆電線の生産を開始することになっている。

#### (l) ゴムサンダル

ゴムサンダル工場は、1958 年頃からぽつぽつ設立され始め、最近においては大小合せて 20 工場程度のものが操業している模様である。

ゴムサンダルは最近急速に普及したもので、都市周辺においては素足で歩いているものは殆ど見られなくなっている。これは、カンボジアにおける一般庶民生活にマッチした履物として普及したものと考えられる。

したがって、工場数も最近急速に増加し、雑貨店には、必ずといってよい程見かけられる商品となっており、既に国内需要は十分満しているといわれている。

ゴムはカンボジアにおける数少ない工業原料のうち最も重要なものであるので、生ゴムの輸出と合せて、このようなゴム製品の輸出を促進することはカンボジア経済上早急に考慮すべきことであり、ゴムサンダルの輸出については、既に政府において対策が講ぜられているとのことである。

#### (m) 自転車タイヤ

この業種におけるカンボジアの代表的工場である Usine Kim Chhe Hang は石けん、ゴムサンダルとの兼業であるが、自転車用タイヤを製造しており、月産 8000 本である。

また、これとは別に、華僑系カンボジア資本と国営商業銀行であるクメール銀行 (Banque Khmère) の融資により、1965 年に完成予定の工場がある。その生産能力はタイヤ年産 135,000 本 (1,000 本/日、チューブ 3000 本/日) である。

これらの工場の生産により、国内需要は充足し得るといわれ、輸出能力も生ずる模様である。

しかしながら、耐久性その他品質において輸入品と比較して相当劣っているようであるので、その品質の向上は輸出を考える場合必須条件である。品質の面が解決されるならば、生ゴムの輸出と並行して、上述のゴムサンダルとともにゴム製品輸出の希望ももたれるものと考えられる。

なお、これら 2 工場の機械設備はすべて日本から輸入され、日本人技術者により技術指導が行なわれたものである。

#### (n) 磷酸肥料

国営企業局が設立された当時、Tuk Meas の鉱山の近くに計画されたものであつて、

当初の計画では、政府出資50%、民間30%、外国資本20%で、年産12,000 tonの工場を建設する予定であつた。

この計画は予定より非常に遅れ、ようやく、1963年6月に外資分としてフランスから600,000リエル(20%)が決定した段階にある。

#### 1.4 工業開発に対する促進策

かつて、植民地としての統治下にあつた新興国においては、一般的通念であるが、カンボジアにおいても、独立当初、工業は最も後進性の強い部門であつた。

民間の資金的能力は貧弱であり、比較的その能力を有する華僑は、資本回収の早い主として商業、特に貿易に対する直接投資の意欲はあつても、資本回収が比較的長期に亘る工業部門に対する投資意欲は仲々生じて来なかつた。

したがつて、まとまつた資金を要する企業に対しては大部分政府の資金的負担となり、極一部しか民間資本に求めることはできなかつた。

国家的資金の合理的な運用を計り、同時に民間資本を極力活用することは、その国の経済開発にとつて、必須の条件であることは当然であつて、そのための施策も種々行なわれている。

以下、これまでとられている種々の工業発促進策について略述することとする。

##### 1.4.1 国家設備金庫(Caisse Nationale d'Equipment du Cambodge)の設立

経済社会開発2カ年計画(当初1956~1957の2カ年計画であつたが、6カ月延長されて、1956年から1958年6月までの実施期間となつた。)の実施に当り、最高実施機関として「国家計画、開発最高会議」(Conseil Supérieur du Plan et du Développement National)が設けられたが、この国家設備金庫は、最高会議の権限下に計画実施に伴う財政上の問題を集中的に処理する機関として、1955年12月23日付法令をもつて創設されたものである。これは開発計画実施に伴う一切の財政上の問題を総括的に処理するのは勿論であるが、生産援助のために中、長期の高額設備資金の貸付を行なう機関として創設されたものである。

この国家設備金庫のねらいは、民族資本が欠如していることから、国营企業の資金的面を円滑にすると同時に、民間工業の発展に資せんとしたものに外ならない。

最近における貸付状況は次の通りである。

〔第15表〕 国家設備金庫(CNE)の1968年1月1日～同年4月30日までの貸付状況

単位：1,000リエル

政府参加企業	
クメール保険協会	17,928
精糖所	10,000
タイヤ工場	
トラクター組立工場	
	37,928
生産援助	
製釘工場	378
ゴムプランテーション	3,500
椰子プランテーション	950
牧牛	660
	5,988
都市建設援助	
マーケット2カ所の建設 (Takeo)	3,000

同金庫の設立以来の貸付けの規模および内容については明確でないが、一般的傾向として、民間工業面にはあまり活用がみられず、官民合弁工業或いはゴム・プランテーション関係への貸出実績が多いとのことである。

#### 1.4.2 王室合作社(Office Royal de Cooperation - OROC)の設立

これは、1956年6月に設立されたもので、その目的として、(イ) 国家の社会主義化をめざし、資源の協同開発と国民相互の協同を計り、(ロ) 商業、手工業の運営、経済などに関する教育を施し、(ハ) 価格の維持、輸出入金融など各種の金融援助と保護をすることをあげている。

これにより、生産、消費、信用の各協同組合が統合され、組合員は国民そのもので、国家は単に援助を与えるのみとされ、自主的運営を原則とし、農業、手工業関係専門の金融を行なうこととされた。

#### 1.4.3 外資導入法

現在施行されている外資導入法は、1957年9月に新たに制定されたものである。これまでの外資法では、カンボジア国内に投下される外資は外資でなければならぬことになっていた。ところが、為替相場において公定レートに対して、実勢レートが非常に大きいため、外資の導入は実際上不可能な情勢にあつた。

この新法では、投下資本における外貨の比率に制限を設けないことにすると同時に、

民族資本と同等の税制上の待遇を与えて、外国資本の流入を計つた。

#### 1.4.4 国家企業局 (Office des Entreprises d'Etat - O F E N E T) の設立

この機関は、1959年11月19日付法令により創立されたもので、(イ) 公共の利益、(ロ) 公共企業または外国の援助による生産物の販売、(ハ) 生産企業の創設、組織化、運営を目的として、計画省の監督下におかれた。

そして、発電所、ゴムプランテーション、ホテル、たばこ工場、酸素アセチレン工場、アルコール醸造、繊維工場、合板工場、製紙工場、セメント工場などの直営工場の外に、民間との合併事業としてビール工場、保険事業などに投資することとした。

この国営企業局は、民族資本が貧弱であることに加えて、国民の投資意欲の欠如していることから、国家設備金庫 (C N E) の活用を通じて、国家的資金の効果的利用を図つて、種々の大規模企業の運営に当つたのであるが、企業の経営管理の拙劣無能のため、特に中共援助による近代的工場の経営がいずれも困難に陥るといつた事態に立ち至つたことを直接の理由として、1963年末、解散するに至つた。

これに関連して、1964年7月30日、工業大臣は一部産業について民間資本による新規工場の建設を禁止すると共に、民間投資対策として政府の要望する業種を挙げて、この分野における民間企業の進出を勧告する発表を行なつた。

これによれば、新たに工場の建設を禁止された業種は米を原料とするアルコール、マッチ、釘、ボルト、有刺鉄線、脱脂綿および包帯類、清涼飲料、電池、医薬品、麻袋、ゴムぞうり、石けん、漁網、トタン板、自転車タイヤおよびチューブ、タイヤ再生の16品目に及んでいる。

したがつて、今後カンボジアにおける工業投資は上記以外の生産部門に向けられなければ投資の許可が得られないことになつたわけである。上記の生産品目は、現在カンボジアのとほしい工業生産品目の殆ど全部門に及んでおり、一見民間投資の全面的禁止令の感がある。

一方、政府の勧告する民間投資の対象企業として工業大臣は次の品目を挙げている。すなわち、酪乳品、苛性ソーダ、窒素肥料、製紙用パルプ、機械、精油、機械製織、小型電動機、丸鋼および鋼管、金属製品、(以上第一次発表)、澱粉、捕鳥網、缶詰、魚粉、皮革製品、獣骨加工、林業、製材等(以上追加発表分)の17品目がそれである。このうち第一次に発表された10品目は近代的な産業であり、カンボジアの民間企業としては、高度な産業であつて、むしろ民間資本の導入が困難な部門である。

工業省が上述のような民間投資の規制を打ち出した目的は、第二次5カ年計画(1965~1969)で政府が新規開発ないし、発展を予定する産業へ民間資本を重点的に導入することにある。したがつて、今後のカンボジア企業の基本的形態は公私合併を企図するものとみてさしつかえないであろう。これによつて旧華僑資本の工業資本家化をはか

り、その経営力の活用をはからんとするのが、そのねらいとみることができる。上記の発表において、政府は、民間投資家に対する協力と保護とを強調しているのはその一つのあらわれである。

#### 1.4.5 国内工業製品の保護

国内に新たな工業が開発され、それまで輸入に頼っていた製品が生産されると、輸入禁止または輸入制限を行なった。

#### 1.4.6 貿易の国営化

政府は貿易面における合理化を策し、1963年11月10日に国営貿易公社 (Societe National D'Exportation et D'Importation-SONEXIM) を設立し、資金24000000リエル、従業員164名をもつて、1964年1月から営業を開始した。これによりすべての輸出入は国営化されることになったのであるが、これによる影響は大きく、特に華僑商人の貿易面における活動は制限を受けることとなった。このため、その派生的効果として工業部門における投資も除々に行なわれるようになったことは、これ自体最も効果的な工業開発促進策であつたといふことができる。

#### 1.4.7 国内工業優遇措置

1964年12月の工業省令により、種々の登記税、および原材料、生産用機械設備の輸入関税を免除するとともに、15カ年間は国有化しないことの保証を与えた。



## 2. 南ベトナム工業の現状

### 2.1 概 要

南北ベトナムは、北に比較的鉱物資源に恵まれてはいるが、基本的にはいずれも農業地域であり、工業化はあまり進んでいかなかった。しかしながら、北ベトナムは古くからフランスにより若干の工業化が行なわれていた。すなわち、1899年には年間生産量250,000 tonのセメント工場が建設され、露天掘による石炭の生産は1938年にはピークとなり、2,235,000 tonを生産した。また、繊維工業、製糖工業、硝子工業等は域内需要の大部分を賄っていた。

第2次大戦後、南北分割以前のベトナムは、経済開発6カ年計画(1951~57年、所要資金114億6,000万ピアスター)を立てて、1951年にコロンボ・プラン諮問委員会に提出したが、南北分割のため刷上げとなつた。

1954年7月、10年間に亘る内戦に一応の幕を閉じ、ジュネーブ協定により南北に分割され、南ベトナムは独立国となつたのである。南ベトナム地域は元々ゴムと米の生産では有名であつたが、他にめぼしい工業はなく、分割の結果は殆んど純粋な農業国としての地位に立たざるを得なくなり、独立当初の経済は可成り貧弱なものであつた。

このような状態において、独自の経済の確立は困難なものであり、また、引継ぐ戦乱の中にあつて、この困難はさらに拍車をかけられたのであるが、この国の工業化のための努力には顕著なものがあり、米国の初めとする諸外国および国際機関による各種の援助と相俟つて、南ベトナムの工業開発には可成りの進展がみられる。

南ベトナム政府は、急速に国家経済の基盤を固めるために、1954年末202億3,700万ピアスター(5億7,800万USドル)の資金で南ベトナム経済再建2カ年計画(1955~1956)をつくり、国内産業の振興と開発に努力するとともに、これとは別に農業開発2カ年計画(1955~1956)を立て、北からの難民定着と農産物の増産を計つた。

すなわち、この国は前述の通り、古くからの農業地域であり、工業といえば、タバコ、米、砂糖、ココナツおよびゴムのような農産物の加工であつたので当初の産業政策は先づ農業と農産物加工の振興に向けられ、その他の工業部門では基礎産業である農業を支援するための国内市場向けの軽工業の開発促進を強調した。

このような施策は、急速な工業化に必要な諸制度、諸施設等産業下部機構の不足している開発途上国にとつては、最も適切な施策であつたといふことができる。

#### 2.1.1 第1次5カ年計画

1955年10月に南ベトナムを視察した国連経済調査団が、南ベトナムの経済開発についての勧告を行なつたか、この勧告に基づき、政府は経済開発5カ年計画を立案し

た。この計画は、1957年に始まり、1961年に終る5カ年間に国民所得を100億ピアスター増加させ、1956年度の推定額800億ピアスターを1961年度に900億ピアスターにしようとするものであつた。

すなわち、工業部門においては、国内で生産し得る可能性のあるものを輸入面から消し、節約し得た外貨をもつて、さらに工業化を進展させることを第1に挙げ、農産物の加工および一般消費物資の生産、鉱業部門ではNong Son炭鉱の開発と燐鉱石の採掘を目標とした。

このような施策を実施するに当り、政府は民間企業の開発を促進する一方民間の意欲を示さない若干の工業生産企業に直接従事し、それらの企業が軌道に乗るに伴い民間に払い下げることをとする政策をとつた。すなわち、政府は、国営企業として、Nong Son炭鉱(Regie des Mines du Charbon de Nong Son)、公社合弁企業として、ロントーセメント工場(Usine du Ciment de Long Tho)、森林開発会社(Societe d'Exploitation Forestiere a TAN MAI)、ベトナム砂糖会社(Societe Sucriere du Viet Nam)ベトナムガラス会社(Societe Verrierie du Viet Nam)、ベトナム製紙会社(Viet Nam Paper Industry Co)等に投資することになり、これらの大部分は現在の南ベトナム工業の重要な要素となつている。

民間の投資を促進する政策としては、投下された資本に対しては、(1) 国有化は行わない、(2) 機械設備、原料、半加工品の輸入関税を免除する。(3) 事業が開始されてから5カ年間は、不動産税、地租、鉱業地代、各種生産税収益税の全額免除または一部減額を行なう。(4) 土着資本に対し、設備、原料または半加工品を輸入するに当り、公定レート換算にて外貨の割当てを与える。(5) 外貨は現行率による利潤か送金でき、事業開始後5カ年経過していれば年間5分の1以内で元本償還ができるし、また、技術者はその貯蓄を本国に送金できる。(6) 「工業開発センター」(C D I)から援助支持を受けることができることとした。

1957年に設立された「工業開発センター」(Centre de Developpement Industriel)は、米国の援助の下に、既存企業の改善と新規企業の設立に必要な技術的、資金的援助を行なうもので、これの融資と米国を中心とする諸外国の援助による外貨をもつて、民間企業による繊維工業、電気事業、ゴム製品製造業、化学工業等の開発に努力し、ようやく工業化推進の端緒となつた。

### 2.1.2 第2次5カ年計画

次いで、政府は1962～1966年に亘る第2次経済開発5カ年計画を策定した。この計画の基本方針は、(1) 基幹産業の開発 (2) 農産物加工工業の開発 (3) 消費財工業の開発であり、第1次5カ年計画から一步前進しようとする意図が明白である。

具体的計画としては、次のようなものを挙げている。

(i) Nong Son 炭鉱

Nong Son 炭鉱の合理化による出炭増と、An Hoa - Nong Son の鉄道建設を計画した。

所要資金

Nong Son 炭鉱： 1 1 5, 0 0 0 0 0 0 0 ピアスター

1, 5 0 0 0 0 0 0 NF

An Hoa - Nong Son 鉄道：

9 5, 0 0 0 0 0 0 0 ピアスター

4, 2 5 0 0 0 0 0 NF

(ii) An Hoa - Nong Son コンビナートの建設

(a) 2 2, 0 0 0 kW の山元火力発電所

(b) 肥料工場（生産能力：尿素 4 2, 0 0 0 ton/年 硫安 1 8, 0 0 0 ton/年）

(c) カーバイド工場（生産能力：8, 0 0 0 ton/年）

(d) セメント工場（生産能力：5 0, 0 0 0 ton/年）

等の建設を計画した。

火力発電所に関してはフランスの援助を受け、工業生産工場に関しては送電線を含めて主として西ドイツの援助を受けることとし、資金計画は次の通りである。

〔第 1 6 表〕

プロジェクト	N F	D M	ピアスター
1. 発電所	2 5, 0 0 0 0 0 0 0		3 5, 0 0 0 0 0 0 0
2. 尿素工場	1 2, 0 0 0 0 0 0 0		2 0 0 0 0 0 0 0 0
3. カーバイド工場		8, 0 0 0 0 0 0 0	2 0 0 0 0 0 0 0 0
4. 送電線 An Hoa, Hai An, Da Nang		7 0 0 0 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0 0
5. 送電線 Tam Kg, Quang Ngai		5, 0 0 0 0 0 0 0	1 5, 0 0 0 0 0 0 0

注：(1) NF：フランス新フラン DM：ドイツマルク

(2) 出典：Deuxieme Plan Quinquennal 1 9 6 2 - 1 9 6 6

(iii) 金鋼工業関係

金鋼製品工場の建設を計画した。

生産計画 7 3, 5 0 0 ton/年

所要資金 3 0 0 0 0 0 0 0 0 ピアスター

内政府出資100,000,000ピアスター

(IV) 化学工業関係

(a) ソーダおよび塩酸

南ベトナム資本の民間会社による3工場の建設を計画した。

所要資金および生産計画は次の通りである。

〔第17表〕

会社名	所要資金		生産計画 (ton/年)		
	1,000USドル	1,000ピアスター	ソーダ	塩酸	晒粉
VICACO	375	30,000	2,000	1,600	350
NAM VIET ALKALI	220	25,000	2,000	1,000	150
NAM MY ALKALI	60	20,000	900	1,200	250
計	655	75,000	4,900	3,800	750

〔出典〕 Deuxieme Plan Quinquennal, 1962~1966

(b) 紙, パルプ

ベトナム製紙会社 (Viet Nam Paper Industry Co. 半官 半民)

および Nam Duong 製紙会社 (民間) の設立を計画した。これらの外, パルプ工場1,

(生産能力: 約 8,000 ton/年) も建設を予定している。

生産計画: 紙 12,000 ton/年 パルプ 4,000 ton/年 (原料パルプの殆は国内製造, 殆は輸入)

所要資金: 430,000ピアスター

(c) セメント

(イ) Ha - Tien セメント工場 (国営)

フランスからの借款により建設を計画した。

生産計画: 初年度 100,000 ton/年 次年度

以降 300,000 ton/年

(ロ) Long Tho セメント工場 (国営)

An Hoa - Nong Son コンビナートの一環として, フランスの援助により建設を計画した。

生産計画: 50,000 ton/年

所要資金: 50,000,000ピアスター

3,520,000 NF (フランスからの経済援助の形で現物出資)

(d) 石油精製

Nhatrang 石油所の建設を計画し, 現在米国の Shell および Esso 両社により建

設準備中であり、本計画中に竣工の予定である。

所要資金： 1,184,000,000ピアスター

(内 南ベトナム側出資 30%)

(V) 織 維 工 業

一応国内全需要を賄うための計画を立てた。

(a) 綿 紡 績

75,000錠の増設を計画した。

内訳：	S I C O V I N A	Da Nang 工場	20,000	錠
	S I C O V I N A	Khanh Hoi 工場	12,000	〃
	V I M Y T E X		22,800	〃
	V I N A T E X C O		20,000	〃

(b) レーヨン

パルプによるレーヨン製造工場(民間)の建設を計画した。

生産計画：3,600 ton/年

所要資金：110,000,000ピアスターおよび13,500,000USドル(このうち一部はDLF借款による)

(c) 織 布

3,500台の自動織機の増設を計画した。

このうち、2,300台は既に輸入手続または設置中である。

内訳：	S I C O V I N A	400	台
	V I N A T E X C O	800	〃
	V I M Y T E X	300	〃
	D A C O T E X	400	〃
	I N T E R T E X C O	300	〃
	D O N G N A I K N T X	100	〃

(d) ジュートバッグ

国内全需要を賄うべく2工場の建設を計画した。

生産計画：7,500,000袋/年

所要資金：70,000,000ピアスター

(D O F I T E Xが含まれている)

(VI) 食料品工業

(a) 精 糖

次のような精糖工場の建設を計画した。

Binh Duong (国営 生産能力 15,000 ton/年)

Quang Ngai (国営 生産能力 18000 ton/年)

Tuy Hoa ( 生産能力 20000 ton/年)

所要資金：769000000ピアスター-6,488,000USドル

(b) コンデンス, ミルク

国内全需要の約90%を賅うべく, 民間による3工場の建設を計画した。

生産計画：900000箱/年

計画概要

〔第18表〕

	生産計画 (100万箱)	合計資金 (100万ピアスター)	設備費 (1000USドル)	CDI融資 (100万ピアスター)
Foremost Diary of V. N. Vietnamese	300	83	815	21
American Diary	360	80	713	21
Mont Blanc (Denis-Frères)	240	58	236	0

〔出典〕 Deuxieme Plan Quinquennal 1962~1966

(c) 缶詰

次のような2つの缶詰工場の建設を計画した。

(i) ベトナム食品工業会社 (Vietnam Food and Industrial Co.)

生産計画：魚, 野菜, 果物の缶詰

3,500,000箱/年

大豆, ソース

1,800,000本/年

タピオカ, グルタミン

200 ton/年

所要資金：37500000ピアスター

(うち500000USドルは設備費)

(ii) Société Alimentaire de la Conserve

生産計画：パイナップル缶詰

2,000,000箱/年(輸出用)

所要資金：34,000,000ピアスター

(うち138,000USドル CDIから5,000,000ピアスター)

借入を計画)

(VI) 家内工業

家内工業に関する計画では、(a) 蚕蚕の奨励 (b) 製陶工業の開発

(c) 綿織工業の近代化 (d) 家内工業に関する陳列館および学校の設立等を計画した。

2.1.3 工業開発の推移(実績)

工業投資、鉱工業生産高および工場の認可状況の推移は、それぞれ、第19表、第20表および第21表の通りであり、特に繊維工業の発達には顕著なものがある。

(第19表) 南ベトナムにおける工業投資(1956~1963)

単位: 1,000 USドル

	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	合計 (1956~ 1963)
電 電	17510	42177	124408	35687	179197	1221331	2360680	2766204	7050244
織 織	235374	51700	273469	511565	873459	597279	484354	163265	3190475
医 薬 品	35255	72993	78082	119483	178235	352517	352517	431333	1621415
食料品, 煙草, および飲料水	4813	43333	117810	46027	62707	262721	35891	94435	667237
治 金 機 械 製 品	8612	484095	42912	7170	51433	2032	2762	25374	624940
化学品, セメントおよび窯業	46939	5918	28327	8739	174423	87959	61333	147214	561401
ゴ ム , 紙 そ の 他	395	2980	3102	53592	8025	157918	31551	24288	352751
合 計	348898	703196	668110	782313	1600788	2682857	3329038	3652613	14067863

(出典) Industrial Development of Vietnam, 1965

Ministry of National Economy

(第20表) 鉱工業生産高の推移

	単位	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
石 炭	ton	2101	12372	20980	19928	27311	57350	71002	104099
織 糸									
綿	"	-	-	-	-	1200	5392	5165	8485
ケ ナ フ	"	-	-	-	-	3923	4478	3023	6193
織 物									
綿	1000 <sup>m</sup>	-	-	-	-	1800	19575	35100	56914
レ - ヨ ン	"	-	-	-	-	81000	76885	46220	66039
化 織	"	-	-	-	-	0	0	285	2249
未 晒 綿 蚊 帳	"	-	-	-	-	76000	39400	37000	65020
ト リ コ ッ ト	"	-	-	-	-	0	0	1425	2703

	単位	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
絹		-	-	-	-	300	400	600	800
タ オ ル		-	-	-	-	5000	3500	4300	4600
魚 網	ton	-	-	-	-	288	504	513	850
ケ ナ フ バ ッ グ	1000枚	-	-	-	-	2893	3677	3013	4424
毛 布	枚	-	-	-	-	0	0	131	297
砂 糖	ton	2000	1100	4900	9000	10200	13100	11400	10700
精 粗 糖	枚	11800	13800	21300	25800	26800	32200	34300	32900
飲料水 および 関連品									
ビ - ル	1000ℓ	50884	53934	53262	50147	51420	51990	59340	73591
清 涼 飲 料 水	枚	23181	23306	27950	26777	27264	25388	33077	44800
ア ル コ ー ル (米)	1000ℓ	10854	9321	8429	8300	7981	7688	7613	8234
製 氷 品	1000ton	120	101	85	76	80	96	117	140
化 学 品									
酸 素	1000ℓ	437	450	532	483	529	534	530	694
ア セ チ レ ン	枚	122	106	108	106	104	101	98	124
炭 酸 ガ ス	ton	118	129	112	114	79	74	59	60
そ の 他									
煙 草	枚	5682	3924	3123	3193	3864	4245	4423	4936
マ ツ チ	10 <sup>6</sup> 箱	2402	1902	1743	1312	1631	1412	1750	1904
塩	ton	59795	79830	62092	155689	144325	99579	192646	127584
紙	枚						715	6189	12185
合 板								65167	36357

(出典) Annual Statistical Bulletin 1963 USOM to Vietnam

(第21表) 工場の業種別操業認可状況 (主要工場)

	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
石 炭					1				
食 料 品				1		1	5	1	2
織 維	2				7	6	10	3	3
木 材 および 木 製 品					1				1
紙 , パ ル プ						2			2
化 学 工 業			1	1	3	3	1	3	2



業 種	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
ゴ ム 製 品						2			
プ ラ ス チ ッ ク 製 品					1		1		
窯 業 , 土 石 製 品					1		1		
金 属 製 品					2		3	3	2
電 気 機 械 器 具					1		2	2	
そ の 他			1		2	2	1		

〔出所〕 Ministry of National Economy

## 2.2 工業生産概況

### 2.2.1 繊維工業

1954年のジュネーブ協定によるベトナムの南北分割以前から、北ベトナムには既に可成りの繊維工業が発達していたが、そのNam Dinhの紡績工場の一部が今の南ベトナム南部へ移され、このときから南部地域の繊維工業の歴史が始まったのであるが、一方中部地域においては、北ベトナムからの避難民などの手によつて小規模の繊維工業が開始された。

このような経緯により、南ベトナムにおける繊維工業は実質的には1956年頃から始まったが、近代的な設備により操業が開始されたのは1960年頃からである。

一方、経済開発5カ年計画（初年度1957年）が策定されるに当つては、政府は繊維製品の自給自足の視態を確立すべく、その施策を推進したのであるが、繊維工業に対してはベトナム人も華僑も他の工業に比較して可成り投資意向が強いこと、および国内マーケットの需要が旺盛であることと相俟つて、非常なテンポで発展し、特に綿紡績工業は第1次5カ年計画による最も成功した産業であつた。

以下繊維工業の各部門について略述することとする。

繊維工業における国内産原材料の利用については、未だ論ずるに足らず、綿花については生産コストの割高と品質の不良のため殆ど全面的に米棉にまたレーヨン、化繊の原糸も輸入に依存しており、わずかに絹糸およびジュートバッグ用のケナフにおける国内産原料の利用があるだけである。

しかしながら、紡績業は急速な発展を示しており、1959年以降の各種繊維品の生産量および生産設備の推移は第22表の通りである。

したがつて、繊維品輸入の推移は、第8表に示す通り、漸次減少しており、原糸および織物の生産は1964年現在国内全需要の約90%を充足しており、政府の当面の産業政策である製品輸入の抑制という面からすれば、南ベトナムの繊維工業は大きな成果

を挙げているものと看做される。

1964年未現在の綿紡織についてみるならば、紡績では110000錠、織布では、2884台の自動織機が稼働しており、1年に17000tonの原綿を使用している。このような綿紡織工業により、原糸の輸入を抑制し、また綿布の輸入を大きく減少させている。

レーヨン織物工業もにわかに発展しており、織機1500台を有している。地方における家内工業では、綿布織機6000台、レーヨン織機8600台、絹織物織機400台が稼働している。

これらによる織物の全生産量は年間172,000,000mを超えるに至っている。

地方における家内工場は、都市周辺における近代的工場の発展に左程影響を受けることなく並行に発展しており、また絹織物についても政府による養蚕の奨励により完全な復活の途上にあり、双方において南ベトナムの繊維工業は50000人の雇用を賄っている。

以下主要な繊維工場についてそれらの現状を略記することとする。

まづ綿織物では、VINATEXCO, UIMYTEX, SICOVINA, DACOEX および INTERTEXCO が主要な工場となっている。VINATEXCO および UIMYTEX の工場は紡績機械はいずれも40000錠、織機はそれぞれ840台および800台の自動織機を設備しており、設備においては略々等しい代表的な綿紡織工場である。

SICOVINA の Da Nang (Tourane) 工場では、紡績機械20000錠、自動織機400台を有し、同社の Khanh Hoi 工場では、紡績機械10000錠を有し、上記 VINATEXCO および UIMYTEX とともに、現在南ベトナムにおける綿紡績能力を決定している工場である。DACOTEX および INTERTEXCO はそれぞれ400台および300台の自動織機を有している。

これらの主要繊維工場の殆んど全部が設備の増設計画をもっている(第2次5カ年計画および現地工場調査報告書参照)

(第22表) 繊維工業における設備および生産量

設 備		1959	1960	1961	1962	1963
生 産 量						
原	綿 紡 機 (錠)	7600	27600	44800	44800	110000
	綿 原 糸 (ton)	700	1200	5392	5165	8489
糸	ケ ナ フ 紡 機 (錠)	1456	1456	1456	1456	1856
	ケ ナ フ 原 糸 (ton)	2300	3923	4478	3023	6193
	自 動 綿 織 機 (台)		400	900	1744	2924
	綿 織 物 (m)		1,800,000	19,575,000	35,100,000	56,914,333

設 備	1959	1960	1961	1962	1963
生 産 量					
自動レーヨン織機(台)	264	284	334	500	1,008
レーヨン動力織機(台)	6,980	6,980	6,980	6,980	6,770
レーヨン手動織機(台)	1,720	1,720	1,720	1,720	1,460
レーヨン織物(m)	48,000,000	81,000,000	76,884,900	46,219,700	66,038,510
自動化織機(台)				95	368
織物(m)				285,000	2,249,174
綿動力織機(台)	4,528	4,528	4,528	4,528	4,392
綿手動織機(台)	1,672	1,672	1,672	1,672	1,622
綿未晒織物および 政帳(m)	52,000,000	76,000,000	39,400,000	37,000,000	65,020,475
タオル織機(台)	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
タオル(m)	4,100,000	5,000,000	3,500,000	4,300,000	4,600,000
絹織機(台)	300	300	300	300	300
絹織物(m)	400,000	300,000	400,000	600,000	800,000
自動魚網織機(台)	7	24	53	54	67
魚網(ton)	85	288	503	513	850
ケナフ織機(台)	57	57	57	57	115
ケナフ袋(袋)	2,203,634	2,899,518	3,626,293	2,902,300	4,424,094
毛布織機(台)				25	25
毛布(枚)				130,800	297,050
自動サーキュラー編機(台)	165	165	165	165	165
手動フラット編機(台)	250	250	250	250	250
ウールセーター(枚)	474,000	732,000	920,000	700,000	512,000
(ton)	(165)	(256)	(321)	(245)	(205)
綿アンダーシャツ編機(台)	194	237	237	237	237
綿アンダーシャツ(ダース)	413,500	500,000	493,700	500,000	450,000
トリコット編機(台)				14	14
トリコット絹物(m)				1,425,000	2,703,046
ソックス編機(地方製)(台)	210	355	419	419	300
全上(自動)(台)	15	22	29	29	50
ソックス(ダース)	176,000	220,000	368,800	350,000	300,000
ひも製造機(台)	493	1,235	1,435	1,435	1,200
ゴムひも(m)	7365,000	18,525,000	21,525,000	19,372,500	15,350,000

(出典) : Industrial Development of Vietnam

〔第28表〕繊維品輸入の推移

単位：ton 1000USドル

		1958	1959	1960	1961	1962	1963	
繊維 原材料	原綿	131 (96)	90 (54)	2,099 (1,235)	7,093 (4,801)	9,273 (6,433)	8,198 (5,560)	
	レーヨンおよび 化繊	0 (0)	0 (0)	0 (0)	79 (56)	212 (142)	351 (263)	
	ケナフ	2,341 (474)	2,293 (388)	1,971 (349)	1,915 (503)	0 (0)	3,365 (474)	
	その他	168 (51)	32 (12)	5 (3)	10 (4)	10 (5)	6 (4)	
	計	2,640 (621)	2,415 (454)	4,075 (1,587)	9,097 (5,364)	9,495 (6,580)	11,920 (6,301)	
糸	綿	4,384 (5,677)	3,553 (3,936)	6,219 (6,806)	2,908 (4,065)	4,437 (5,767)	6,821 (8,344)	
	レーヨン	2,341 (2,778)	4,991 (5,327)	7,093 (7,771)	7,960 (9,087)	4,725 (5,404)	8,982 (9,798)	
	化繊	22 (193)	33 (229)	48 (260)	134 (552)	273 (1,202)	825 (3,466)	
	ウール	53 (267)	140 (636)	238 (1,174)	280 (1,393)	99 (477)	75 (364)	
	ケナフ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (21)	8 (3)	
	その他	931 (1,164)	905 (1,061)	1,518 (1,702)	2,165 (2,107)	2,893 (2,577)	99 (53)	
計	7,731 (10,079)	9,622 (11,189)	15,116 (17,713)	13,447 (17,204)	12,449 (15,448)	16,810 (22,028)		
織物	綿	6,967 (17,757)	6,539 (13,870)	5,992 (14,529)	5,483 (14,102)	2,642 (6,513)	605 (1,468)	
	レーヨン	4,347 (11,474)	1,881 (4,922)	1,015 (3,526)	669 (2,221)	308 (934)	187 (473)	
	化繊	292 (2,999)	336 (3,227)	346 (2,970)	538 (3,894)	470 (3,121)	691 (3,275)	
	ウール	84 (302)	15 (111)	19 (138)	32 (219)	41 (237)	23 (94)	
	毛布	綿	708 (330)	379 (172)	795 (377)	736 (377)	676 (474)	300 (169)
		ウール	31 (51)	40 (50)	67 (81)	41 (48)	102 (182)	4 (9)
	その他	2,697 (3,950)	1,163 (2,018)	2,103 (1,023)	1,227 (1,995)	794 (1,279)	540 (688)	
計	15,126 (36,863)	10,353 (24,370)	10,337 (31,644)	8,726 (22,856)	5,033 (12,740)	2,350 (6,176)		
合計	25,497 (47,563)	22,390 (36,013)	29,528 (50,944)	31,270 (45,424)	26,977 (34,768)	31,080 (34,505)		

注：(1) 上段の数字は重量 (ton), 下段の ( ) 内は金額 (1,000 USドル)

(2) 出典：Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam.

漁網は1963年には年間850 tonを生産をしており、これも1959年の85 tonから急速に伸びている。

次に、レーヨンおよび化繊織物についてみると、近代工場においては、合計約1,400台の自動織機を有する14の工場でレーヨンおよび化繊糸が使用されている。地方においては、上記近代工場における年間生産量約1,000,000 mに比較し、約570,000 mのレーヨンおよび化繊織物を生産している。

VISYFASAとTHANH-HOAは双方で自動織機275台を使用し、1963年度において年間約4,000,000 mの化繊織物を生産しており、またSYNTHELAINの工場が建設中であり、これは年間320 tonのアクリル糸を生産することになっている。

ジュートバッグについては、Société Vietnamiene du JuteおよびDOFITEX(第2次5カ年計画により建設)の2工場が、1,856錠、織機115台を有しており、稲藁および米の輸出用として1963年度には約4,400,000袋を生産しており、1964年度以降はDOFITEXの全面操業開始により、年間750,000袋の生産が可能となる。

毛布に関しては、SAKYMENが南ベトナムにおける唯一の工場であり、1963年度においては紡績機械400錠、織機25台で年間約300,000枚を生産しており、最近当工場の設備は800錠および60台に増設されている。

## 2.2.2 ゴム製品工業

1963年度の生ゴムの輸出量は68,926 ton(33,480,000 USドル)に達しており、(第41表参照)、ゴムは米と並び最も重要な外貨の獲得源の一つとなっている。

一面、ゴム製品の輸入はかなりの数字を示しているが、その量は逐次減少しつつある。これはゴム製品の加工生産が高まってきたからにはほかならない。

しかしながら、国内のゴム製品工業は、生ゴム生産量のわずか1.4~1.5%を使用しているに過ぎず、これは自動車用タイヤの修理用、自転車およびスクーター用のタイヤおよびチューブの生産用およびその他若干のゴム製品の生産用である。

現在では、MICHELIN(フランス資本)、DAI-NAMCOおよびDUTACOの3つの大規模工場が、主として自転車用タイヤ、チューブの供給を行なっている。MICHELINおよびDAI-NAMCOの2工場による生産は、年間2,000,000本の自転車用タイヤおよび1,500,000本の自転車用チューブである。DUTACOの工場は1964年の中頃から生産を開始したばかりである。

その他、ゴムサンダル、ゴムマット等の若干の工場があり、また130,000本の自動車用タイヤ、チューブの生産工場も間もなく操業を開始することになっている。

1968年度のゴム製品工業における労働者数は1,500人で、この数字は1965年度には2,000人になるものと予想されている。

### 2.2.3 製糖業

南ベトナムは現在、(1964年)年間約112,000 tonの砂糖を消費しているが、その殆どは輸入粗糖の精製によるものである。

国産甘蔗を原料とする砂糖の生産は従来主としてベトナム製糖会社(Societe Sucrerie du Viet Nam)によつて賚られて来た。同社は1951年Hiep Hoaに設立されたフランス資本の会社で1958年に政府が買収したものである。当初の生産量は年間約1,000 ton程度にすぎなかつたが、1958年から設備の拡張が進められ、現在では精白糖の生産は10,000~13,000 tonに達している。なお、国産甘蔗の供給が季節的に制約されCrusking Millが1月から6月までの半年しか稼働できないので、輸入原糖と国産原糖の精製を行なっている。また同社のKhan Hoi工場は輸入原糖からの精製を専門に行なつており、日産能力180 ton両工場合計の精白糖の生産量は1963年において約64,000 tonに達している [第24表]ベトナム製糖会社の国産精糖生産

精白糖工場にはこの外Gia Dinh 省 Vinh Phuに約12の小規模な工場があり合計日産200 tonの能力をもつて1964年に約16,000 tonの生産をあげている。

手工業的な粗糖の生産業者は全国に約400あり、Binh Duong, Tuy Ninh, Gia Dinh, Quang Nam, Bien Hoa, Quang Ngaiの各省に散在し、年間32,000 ton程度の生産を行なっている。

国産甘蔗による粗糖の生産は南部、中部ともこの数年間着々と増加して来たが、最近治安の悪化に伴ないやや停滞している。

南ベトナムはカンボジアと異り、既に年間1,000,000 tonに達する甘蔗の生産を行なっているため、製糖業の発展は非常に有望である。現在計画されている近代的な製糖工場は3カ所で合計生産能力は45,000 ton/年である。いずれも第2次5カ年計画(1962~1966年)で予定されていたものであつて、そのうちBinh Duong工場とQuang Nam工場(いずれも国営)は1966年、Juy Hoaに予定されているものは1967年にそれぞれ操業開始の予定である。したがつて1968年には南ベトナムにおける精白糖の生産は輸入原糖の精製を合せて140,000 tonに達し、粗糖を含めて砂糖の総生産は175,000 tonを超え、国内消費を十分に賚りうる見込である。

年 度	生産量 (ton)
1956	2,000
1957	1,100
1958	4,900
1959	8,000
1960	10,200
1961	13,100
1962	11,400
1963	10,700

〔第25表〕 粗糖の生産ならびに精製

単位：ton

		1958	1959	1960	1961	1962	1963
精	白糖	4,900	9,000	12,200	13,100	11,400	10,700
粗	南部	16,400	17,100	19,100	23,100	25,500	23,400
	中部	4,900	8,700	7,200	9,100	8,800	8,900
糖	計	21,300	25,800	26,300	32,200	34,300	32,300
精製粗糖量		15,000	23,800	47,700	44,700	52,600	50,600

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

〔第26表〕 砂糖の輸入(輸入相手国別)

単位：ton

		1958	1959	1960	1961	1962	1963
粗	キューバ	17,275	22,055	37,659	4,397	0	0
	台湾	18,335	4,000	0	0	3,000	6,560
	インドネシア	4,557	3,616	5,779	0	0	23,722
	フィリピン	0	13,898	0	0	0	0
	ブラジル	1	0	0	9,415	30,119	0
	トルコ	0	0	0	23,387	5,000	0
	フランス	0	0	8,324	1,575	3,837	0
	イタリア	0	0	1	3	3,192	0
	印度	0	0	0	0	2,617	23,796
	その他	1,292	72	0	2	5	0
	計	41,459	43,641	51,763	37,779	47,770	54,079
精	キューバ	2,900	0	0	0	0	0
	台湾	0	1,000	0	0	0	0
	フランス	0	0	—	1	4	5
	計	2,900	1,000	—	1	4	5
合計		44,359	44,641	51,763	37,780	47,774	54,084

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

#### 2.2.4 硝子工業

現在南ベトナムにある近代的な硝子工場は1960年に設立されたベトナム硝子会社 ( Cong Ty Tug Tinh VN ) 社である。同社はベトナム政府、民間およびフランス系のビール、製氷会社と極東硝子会社の合併事業で、資本金1億ピアスター、出資比率は、ベトナム側51%、フランス側49%である。生産能力は硝子ビン年産15,000tonで国内需要を賅っている。

その外にCholon地域を中心に零細な硝子工場が全国で約40カ所あり、各種のビン類、コップその他低級な硝子製品の生産を行なっている。生産量は年約4,000tonである。

板硝子の生産は現在まだ行なわれていないが、硝子管製造工場の建設が予定されている。

硝子原料の珪砂は高品位なものが非常に豊富であつて、とくにCam Ranh 湾一帯は珪砂の産地として有名である。現在珪砂は年間4-5000ton日本およびカナダ、米国にも輸出されており、原料資源の点からみて、南ベトナムの硝子工業は好条件に恵まれているので今後の発展が期待される産業である。

#### 2.2.5 製紙工業

南ベトナムの製紙業は1961年にDong Nai 製紙化成品会社 ( Cong Ty Ciay va Hoa Phan Dong Nai , 略称COGIDO ) が設立されるまではみるべきものはなく、年間紙30,000ton、6~7,000,000USドルの紙およびパルプを輸入によつて賅つており、わずかにSaigon Cholonにおいて家庭用の紙および包装紙の製造が行なわれていたにすぎない。

〔第27表〕 紙、パルプの輸入

年 度	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
輸 入 量 ton	24,648	33,845	23,746	30,879	28,444	40,175	34,395	31,404
輸入額 1000USドル	6,515	10,598	6,175	7,126	6,492	8,712	7,696	6,092

COGIDOは南ベトナム民間と米国の合併によるもので資本金20,200,000ピアスター、出資率はベトナム80%、米国20%である。工場はSaigon郊外の新工場地帯Bien Hoaにあり、日産能力は新聞紙、印刷紙、包装紙等上質紙24tonである。製紙用パルプの生産能力は年産8500tonである。生産目標は印刷紙、包装紙、ボール紙等年産10,000tonで、ボール紙は甘蔗のバガスを使用する予定であるが、現在パルプの不足は輸入に仰いでいる。

同じくBien HoaのTan Mai に1963年7月操業を開始したベトナム製紙会社 ( Viet Nam Paper Industry CO ) はベトナム政府と米国Person & Whitmore



Paper Mill Co との合併によるものである。資本金 1 8 0 0 0 0 0 0 0 ピアスター  
出資比率はベトナム政府 8 7 % , 米国側 1 3 % である。Dalat - Dran 地域の三葉松  
を原料とする紙パルプの日産能力 2 5 ton , 年間 9, 0 0 0 ton の紙の生産を行なう。な  
お松の外竹, 稲藁, 甘蔗バガス, 等を利用する紙パルプの生産をも予定している。

両工場による紙の生産量は第 2 8 表の通りであるが, 1 9 6 4 年にはおおむね全能力  
稼働を行なっているため, 生産量は 1 7 0 0 0 ton 程度を確保し得る見込みである。た  
だし, パルプの自給を図るために年産 9, 0 0 0 ton のパルプ工場を近く Bien Hoa に建  
設することになつている。

〔第 2 8 表〕 紙の生産量

年 度	1 9 6 1	1 9 6 2	1 9 6 3
生 産 量 ( ton )	7 1 5	6, 1 8 9	1 2, 1 8 5

注: (1) Annual Statistical Bulletin, 1 9 6 3, U S O M to Vietnam による。

(2) C O G I D O の生産は 1 9 6 1 年暮から, Vietnam Paper Industry Co の  
生産は 1 9 6 3 年 6 月から。

南ベトナム製紙業は, 国内にパルプ原料が比較的豊富であるので, 今後の発展が期待  
され, 近い将来国内需要の 7 0 % 程度は自給可能となろう。

なお, 第 2 次 5 カ年計画では, この外に Nam Duong に年産紙 3 0 0 0 ton の民間企  
業の設立が予定されている。

#### 2.2.6 セメント工業

第 2 次 5 カ年計画 ( 1 9 6 2 ~ 1 9 6 6 年 ) で南ベトナム政府は 2 カ地点で合計年産  
3 5 0 0 0 0 ton のセメント生産を予定した。

その一つは, シヤム湾に近いカンボジアとの国境 Rachagio 省 Triton の石灰山の開  
発による Ha Tien セメント工場の建設である。この工場は, Ha Tien でクリンカー  
の生産を行ない, 粉砕, 包装は Saigon 郊外の Thu Duc に工場を設けて年産  
3 0 0 0 0 0 ton のポルトランドセメントを生産する。

工場は 1 9 6 1 年に着工し, 1 9 6 4 年完成した。現在南ベトナムのセメント輸入量  
は年間 4 5 0 0 0 0 ton 程度であるので, Ha Tien セメント工場が全能力稼働すれば,  
セメントの国内需要の殆どを賄いうる見込みである。

〔第29表〕 セメントの輸入

年 度	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
数 量 ton	183,511	228,598	284,253	307,152	305,327	367,648	399,519	445,887
金 額 1000USドル	4,612	5,591	6,369	6,945	6,881	8,491	9,488	9,614

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

セメント製品の生産については Saigon - Cholon 地域に多数の小工場があり、タイル、ヒューム管などの生産を行なっているが、1963年 Thu Duc と新設された NAVIFICO (Nam Viet Fibro Ciment Cong Ty) では波型スレート板の生産を行なっている。月産能力120,000枚であるから約1,000,000枚の国内需要を十分に賄うる。

第2次5カ年計画で予定されたもう一つは、北部 Hue にある Long Tho 石灰工場でセメントの生産を行なうもので年産50,000tonの計画である。第2次5カ年計画策定当時は、セメント工場は An Hoa - Noug Son コンビナートの一環として計画され、An Hoa に立地される予定であつたが最近 Hue の石灰山元に変更された模様である。北部の治安が悪いため現在のところ建設の早急な実現は困難と思われる。

南ベトナムは他の地下資源に較べて石灰石に恵まれており、また国内需要の点からみてもセメントの増産を必要としているので、今後セメント工業の発展が期待される。

## 2.2.7 化学工業

## (a) 基礎化学品

南ベトナムは年間10,000,000ドルを超える基礎化学製品を輸入しているので、第2次5カ年計画ではベトナム民間資本三社による苛性ソーダ、塩酸の生産を予定した。

〔第30表〕 第2次5カ年計画予定の苛性ソーダ、塩酸工場

会 社 名	製 品 年 産 ton		
	苛性ソーダ	塩 酸	晒 粉
V I C A C O	2,000	1,600	350
T A N V I E T A l k a l i	2,000	1,000	150
N A M M y A l k a l i	900	1,200	250
合 計	4,900	3,800	750

このうちVICACO ( Viet Nam Chlorine Alkali Co. ) はすでに1963年に操業を開始した。現在の生産能力は次のとおりである。

設立当初の主たる目的はむしろ塩酸〔第31表〕VICACOの生産能力(年産ton)の生産にあつたが、現在すでに塩酸は生産過剰である。苛性ソーダに比べて国内における塩素需要の開拓が困難であるため、増産計画(電解槽倍増)は見送りの状態にある。

電解苛性ソーダ	1,182
塩酸	3,000
液体塩素	750
晒粉	3,000
液体苛性ソーダ	3,000

〔第32表〕基礎化学製品の輸入 1,000USDル

年 度	1958	1959	1960	1961	1962	1963
金 額	2161	3003	5231	6904	8515	10338

1963年度の塩酸および苛性ソーダの生産量は、それぞれ2,700tonおよび2,100tonである。

酸素、木炭ガスおよびアセチレンの生産は既に国内全需要を充足している。

#### (b) その他の化学品

5つの石鹼工場および2つの洗剤工場が家庭用および工業用の数種の石鹼および洗剤を製造している。

その他の化学品ではSaigonのBUI DUY CAN外2社がペイントを、BINH DUONGのVO VAN VAN外2社が印刷インクを製造しており、また歯磨き、マッチ、殺虫剤等の製造工場もあるが、これらはすべて輸入原材料によるものである。

#### (c) 医薬品

南ベトナムにおける医薬品工業は、最近年急速な発展を示している工業の1つであり、現在大小合せて約30の製薬工場があり、これらによる販売は、国内需要の約半を賄っており、約半を輸入にあおいでいる。

しかしながら、原料は殆んど全部輸入されており、国内産原料の処理よりも、むしろ輸入原料の物理的処理の分野で発展している。すなわち、近代的設備をもつ中小規模の工場が、5~6年前から、それまで既製品輸入にたよっていたものを、輸入原料による調剤医薬品を生産している。

TRAN VAN TANHは1957年からSaigonに工場をもち、ビタミン剤、グルプアミン剤、ペニシリンその他風邪薬、咳止め等を主として処理しており、販売価格は月400~500万ピアスターである。外にも1~2の近代的製薬工場があり、

抗生物質およびその他通常薬剤を処理している。

ワクチンは、Saigonの有名なPasteur研究所で生産されており、流行病の発生時には他のアジア諸国にも供給している。

#### 2.2.8 木材および木製品工業

南ベトナム全国に、現在544の機械製材所が散在しているが、これらの大部分は弱小企業である。

これらのうち最大の企業はBien Hoa Tan Maiの森林開発会社(Societe d'Exploitation Forestiere a TAN-MAI)で、元フランス人経営の会社であつたものを、1958年に南ベトナム政府が買収したもので、月産2,000m<sup>3</sup>の製材と、日産1,400m<sup>3</sup>の合板の製造を目標としてきたが、政府はこれを民間に払下げることとし、1964年3月から工場を閉鎖し、廃売に出した。

木炭の製造は、すべての州において盛んに行なわれており、全国の家庭用燃料の主要供給源となつている。

#### 2.2.9 金属ならびに機械工業

〔第33表〕 合板の生産量

近年、機械および冶金工業の発達が見られる。Saigonの若干の鋳物工場は、ポンプその他の農業機械器具を供給しており、〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, 緩慢ではあるが、農業の機械化に参与している。

年 度	1962	1963
生産量 m <sup>3</sup>	65,167	36,357

USOM to Vietnam

Saigonにおける最大の鋳物工場の一つで製造されている自動織機は、絹およびレーヨン織物業者で使用されている。

2つのスクーター組立工場、12のモーターバイク組立工場があり、また部品の製造も行なわれている。

Saigonに2つの造船所(THANH-XUONGおよびCARIC)があり、バージ、引き船等を製造している。魚船用等の小馬力ディーゼルエンジンの製造も計画されている。

3つの工場で、ケーブル、銅線および鉄線を製造している。

Saigonの北方16kmの地点に鋼板圧延工場の建設も計画されている。

#### 2.2.10 食料品およびその他工業

##### (a) 精米所

精米工場は全国に500以上あり、国内向けおよび輸出用米を精米している。

##### (b) その他の食料品工業

農産物、海産物および食肉の加工工業は元々政府が力を入れてきた工業であり、最

近よりやく発展の傾向が見られる。これらは主として輸出用となるもので、今後の発展が期待される工業の一つである。

近海産の蝦の冷凍は、1959年以来行なわれており、主として米国、香港等に輸出されていた。この蝦の冷凍工場は、SOUTH SEA SHRIMPSで、当初は国営の工場であつたが、民間に払い下げるため、1963年1月に競売に付され、一時操業を停止したが、1965年1月から操業を再開する予定となつていた。この冷凍工場の稼働時生産は1日3 ton程度であつた。このような蝦の冷凍工業が適切な規模で開発されるならば、ゴムおよび米と並んで重要な外貨獲得源となるものと期待される。(卵、豚肉、生豚、野菜、鮮魚等もシンガポール、香港等へ輸出されている)

缶詰工業では、現在INTRACO, MY CHAU およびVINH KYの3社が生産を行なつており、いわし、えんどう、トマトおよびその他幾海産物を国内向けに加工している。現在のところこれらの加工工業の規模は小さいが、将来は有望視されるものの一つである。

第2次5カ年計画により、VIETNAM FOOD AND INDUSTRIAL CO.が設立され、その工場が建設中で、1965年夏頃から魚類および果物の缶詰年間4,000,000缶を生産することになつていた。

米国サンフランシスコのForemost Dairies Inc.によつて建設された砂糖入りコンデンスミルク会社(International Dairy)は、1964年12月から年間300,000箱のコンデンスミルクを製造することになつていた。

Quang Nam州に建設中の工場では、輸出用として「につけい皮」の蒸溜を行なうことになつている。

### (c) 飲料水

南ベトナムは東南アジアでは、飲料水工業の比較盛んな国である。

「インドシナ、ビール・製氷会社」(Brasseries et Glacieres de l'Indochine - BGI)は、フランス系の会社で、1963年度にビール7000000ℓ余を生産しており、国内全需要を賄うと同時に、同系会社を通じてカンボジアその他にも供給している。当社のビールには2種類あり、一つは“Tiger”印、他は「33」印である。これらのビールの外、清涼飲料水でも各種のジュース、ソーダ水を生産している。

も一つのフランス系会社「インドシナ、カス飲料水会社」(Société des Eaux Gazeifiées de l'Indochine - SEGI)は、清涼飲料水だけを生産しているが、上記BGIの生産と合せると、清涼飲料水の1963年度の生産は約45,000,000ℓに達している。

〔第34表〕 飲料水その他の生産推移

年 度	1958	1959	1960	1961	1962	1963
ビ (1,000ℓ)	53,262	50,147	51,420	51,090	50,840	73,501
清涼飲料水 (1,000ℓ)	27,950	26,777	27,264	25,388	38,077	44,800
米のアルコール (1,000ℓ)	8,429	8,300	7,981	7,688	7,613	8,234
氷 (1,000 ton)	85	76	80	96	117	140

〔資料源〕 Annual Statistical Bulletin, 1963,  
USOM to Vietnam

(a) 煙 草

現在, Saigon - Cholon 地域に3つの煙草工場があり, 20余種の紙巻煙草, 数種の葉巻およびパイプ煙草を生産している。煙草生産の推移は第35表の通りである。

〔第35表〕 煙草の生産推移

単位: ton

	1958	1959	1960	1961	1962	1963
紙巻煙草および パイプ煙草	3,121	3,191	3,862	4,243	4,421	4,920
葉 巻	2	2	2	2	2	16
未 加 工 葉 煙 草	2,397	1,153	2,715	2,842	2,562	2,735

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963,  
USOM to Vietnam

紙巻煙草の消費は1964年に15%増加しており, 煙草税は南ベトナム歳入の重要な部分を占めている。

## 2.3 工業開発のための諸条件

工業開発のための条件となる国内産工業原燃料，社会経済的問題等について以下略述することとする。

### 2.3.1 工業原燃料

#### (a) 石灰石

石灰石はPach Giaの平原にあるTritonに石灰石山があり，Cam Ranh湾にも相当の埋蔵量がある。

このうち，Tritonの石灰石は既にHaTienのセメント工場で利用されている。

第2次5ヶ年計画で予定されている一つのセメント工場は，北部HueにあるLong-Tho石灰工場でのセメントの生産で，年産50000tonの計画である。

南ベトナムは他の地下資源に比べて石灰石は豊富であり，セメントの国内需要の点からみて，セメントの増産は必要であり，セメント工業の発展が期待されるとともに，将来カーバイト工業の国内開発も有望視される。

#### (b) 珪砂

珪砂は，Cam Ranh地域およびNhatrangに近いThuy Trieuの海岸にみられる。現在，これらの地域からSaigonに運ばれて，硝子その他の工業用に利用されている外，相当の量が日本，米国，カナダ等へ輸出されている。推定埋蔵量は，12000000tonといわれている。

既にビン類等の硝子工業があるが，原料資源の点からみて，南ベトナムは硝子工業にとって好条件にあるので，その今後の発展が期待されるとともに，将来金属シリコン，フェロシリコンのような珪素工業における国内利用が有望視される。

#### (c) 塩

南ベトナムにおける製塩は，Phan Rang, Phanthiet, Cana等で行なわれておりCanaの塩は特に高品質であり，日本にも輸出されている。

南ベトナムにおける塩の生産状況は第36表の通りである。

【第36表】 南ベトナムにおける塩の生産実績

年 度	1958	1959	1960	1961	1962	1963
生産量 (ton)	62,092	155,689	144,325	99,579	192,646	127,534

塩は，既に小規模ではあるが，苛性ソーダ，塩素工業において利用されており，塩の増産は可能であると考えられるので，その工業的利用の拡大が期待される。

#### (d) 燐鉱石その他

現在南ベトナムは年間300000tonの化学肥料を消費しており，その全量を輸入に仰いでいる。

[ 第 37 表 ] 肥料の輸入量 ( 単位 ton )

	1958	1959	1960	1961	1962	1963
合 計	80932	150235	130751	123677	115554	300876
窒 素 肥 料						
硫 安	38434	70649	47525	30203	44737	126429
尿 素 其 他	2629	11508	7902	13158	9626	58595
計	41063	82157	55427	49361	54363	185024
磷 肥						
磷酸カルシウム	31484	62522	63409	53794	49851	82658
磷安, 磷酸カリ	2500	2194	2110	2913	2549	7744
其 他 磷 肥	363	1200	276	199	193	12683
計	34347	65916	65795	56906	52593	103085
カ リ 肥 料	5304	8763	7789	15622	7719	11786
天 然 肥 料	192	0	0	0	379	0
混 合 肥 料 其 他	22	2399	1740	1788	500	981

[ 出典 ] Annual Statistical Bulletin , 1963 USOM to Vietnam

南ベトナム政府は、前述の通り第2次5ヶ年計画でNong Son炭鉱の総合開発計画に、年産硫安48000ton、尿素42600tonの肥料工場を予定している。操業開始は1966年の予定である

Nong Sonに近いDa Nang 港の東480kmにあるParcel 群島はグアノの産地として知られており、その開発と磷酸肥料工場の建設も第2次5ヶ年計画で予定されており、1963年から稼働することになっていたがまだ具体化するに至っていない。

南ベトナムでは近年急速に化学肥料の消費が増加しており、その輸入は1963年には21000000USドルを超えている。

Nong Son炭の多角的利用

と炭鉱山元発電所の低廉な電力を原料とするAn Hoa-

Nong Son総合開発が実現すれば、Parcel 諸島の磷鉱 Long Thoの石灰等の開発と

合せて、原料的にも南ベトナムの肥料工業は今後十分発展の基盤をもつものである。

第38表 肥料の輸入額(1000USドル)

年 度	輸 入 額	年 度	輸 入 額
1958年	4,938	1961年	7,111
1959年	8,849	1962年	6,888
1960年	6,268	1963年	21,227

[ 出典 ] Annual Statistical Bulletin,

USOM to Vietnam



現在化学肥料は、主としてゴム・プランテーションと米作に消費されているが、作物別の化学肥料消費率は次表の通りである。

〔第39表〕 作物別化学肥料消費比率(%)

肥料種別	ゴ ム		米		茶、コーヒー		甘 蔗		蔬 菜		その他作物		合 計	
	1962	1963	1962	1963	1962	1963	1962	1963	1962	1963	1962	1963	1962	1963
磷 安	81	81	-	-	7	7	4	4	2	2	6	6	1000	1000
硫 安	3	3	40	50	3	5	20	15	20	15	14	12	1000	1000
尿 素	35	20	25	45	10	5	20	15	5	5	5	10	1000	1000
カリ肥料	28	24	6	5	12	12	10	10	32	40	12	6	1000	1000
燐酸3カルシウム	3	2	70	75	2	2	15	12	1	1	9	8	1000	1000
燐酸2カルシウム	10	5	13	15	15	15	15	12	35	40	12	13	1000	1000

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

(e) ゴ ム

ゴムと米は、南ベトナム経済の2大動脈であつて、その発展は国家的使命として要請されているものである。南ベトナムの赤土(ラテライト土壌)は、ゴム樹の生育に適しており、米に次いで南ベトナム経済に大きな地歩を占めているものである。

南ベトナム全輸出額のうち、ゴムの占める率は次の通りである。

〔第40表〕

単位：1,000USドル

	全 輸 出 額	ゴムの輸出額	ゴムの%
1958	5 5, 1 7 5	3 5, 5 6 0	6 4. 5
1959	7 5, 0 6 3	4 6, 9 1 3	6 2. 5
1960	8 4, 4 5 1	4 7, 9 9 8	5 6. 8
1961	6 9, 7 6 6	4 3, 8 3 2	6 2. 8
1962	5 5, 4 6 7	3 7, 9 1 7	6 8. 4
1963	7 6, 6 7 1	3 3, 4 8 0	4 3. 7

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

しかしながら、戦争と治安悪化のため十分な管理が行なわれておらず、その上大プランテーションはフランス人経営によるものであり、ベトナム人経営の小規模プランテーションがあるが、新しい資本の投入は行なわれず、増産のための施策は殆ど行なわれていない。

政府は、ゴムの生産拡大のために「ゴム基金」を設けて新プランテーションの開拓および若木植替えなどを奨励したが、実績は緩慢にしか上がっていない。

〔第41表〕 ゴムの生産、輸出および国内消費量

単位：ton

年 度	生 産 量	輸 出 量	国 内 消 費		ス ト ッ ク
			消費量	生産量に対する%	
1958	71,700	68,491	766	1.07	9,700
1959	75,400	78,427	638	0.85	7,300
1960	76,900	70,121	914	1.19	8,000
1961	79,100	83,403	1,200	1.52	6,700
1962	77,900	74,497	1,087	1.40	6,200
1963	76,200	68,926	1,171	1.54	6,400

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

一方、ゴム加工工業部内においては、前述の通り自転車、スクーター用等のタイヤ、チューブ、ゴム、サンダル等の若干の製造工業はあるが、これら工業におけるゴム使用量はゴム生産量のわずか1.4～1.5%に過ぎない。天然ゴム製品の将来性についての疑問があるとはいえ、現在のところ上記のように安定した輸出量を示していることは、その国際的需用が減退していないことを示している。

最近、自動車用タイヤ、チューブの製造工場が建設され間もなく操業を開始することになっているが、ゴム製品工業の発達はこの国における数少ない重要な工業原料に対する付加価値によるより高い経済的効果をもたらすことは明らかである。

#### (f) 綿 花

第2次大戦中には、綿花栽培は中部地域において相当に発展していたがその後すっかり衰微し、最近になつて政府が大々的に奨励し始めたが、生産は左程伸びていない。その主な理由としては、輸入米綿花に比較して生産コストが高いことおよび品質がよくないことが挙げられるが、米国の援助政策（ハイアメリカン）とも相俟つて、現在の南ベトナム繊維工業における原綿および綿糸は殆ど全部米国から輸入されている。

#### (g) ケナフ

ケナフ（Kenaf）はジュートに代るものとして、1940年頃から商品として認められたもので、南ベトナムにおいても中部高原地方において若干の栽培が行なわれており、その品質は優良であるといわれているが、その生産量は未だ国内全需要のほんの一部を満しているに過ぎず、国内需要の大部分はタイ国その他から輸入されている。

ジュートバッグ工場としては、Societe Vietnamiene du Jute が既に操業しており、第2次5ヶ年計画により建設されたDOFITEXも1964年以降は全面操業が可能となる予定である。

他にもジュートバッグ工場の建設計画（第2次5ヶ年計画により）があり、またこの国の一部地方の気候、地勢はケナフの栽培に適しているので輸出の大宗である米その他の農産物に対する必需品であるケナフバッグの製造原料の国内自給のためにケナフの増産が期待される。

(h) 木材および木炭

南ベトナムの森林は、政府の保護林および解放林とに分けられており、前二者での代採は禁止されている。政府保有林の大部分すなわち378,000 haは中部低地、51,000 haが中部の高原地方にある。保護林は中部低地地方のみであり、解放林は中部高原地方に1,000,000 ha、南部地方に397,000 haある。

俊秀な建材などは主として政府として政府保有林および保護林に賦存しており、解放林は主として雑木林である。

森林の政府保有林、保護林ならびに解放林および樹種別面積の分布は第42表の通りである。

〔第42表〕 森林面積の分布

単位：1,000 ha

	保有林	保護林	解放林	松林	竹林	冠水林
中部低地	379	1,183	—	—	—	—
中部高地	51	—	1,000	180	100	—
南部	—	—	397	—	—	320
合計	430	1,183	1,397	180	100	320

出所：森林治水局

松林は中部のDa Latを中心にかたまっている。松には二葉、三葉および五葉松があり、一般に三葉松はパルプ材に適し、年間40万m<sup>3</sup>の素材を提供することは容易であるといわれている。竹林も中部高原地帯にあり、これもパルプ材に利用が可能である。冠水林は全部で450,000 haといわれ、中部および南部のベトナム半島沿岸に豊富であり、冠水林のマングローブは良質の木炭材となつている。

木炭製造用として一般に利用される樹種は上記マングローブの外、内陸地方にみられる各種の樹木がある。これらによる木炭の水分は1～2%程度といわれており、カーバイト工業その他における炭素材としての利用も可能である。

現在においても木炭はこの国の燃料として重要な要素となっており、その製造、集貨、輸送の合理化を図り、大量に生産されるならば、工業的利用面において有望視され、合せて農家経済に寄与するところ大となるであろう。

(i) 石 炭

南ベトナムにおける石炭資源は、現在のところ Da Nang の港から 50 km の地点にある Nong Son 炭鉱におけるものだけである。

Nong Son 炭鉱は 1881 年に発見されたもので、フランス統治時代に開発が試みられたが、海岸からの距離が可成りあり、輸送費が高つくため、出炭量は少く、年間約 5,000 ton 程度であった。その後独立戦争の間は全面的に出炭を停止した。

南ベトナム 政府は、真剣にこれを開発することに踏切つたのであるが、1956 年に Nong Son Coal Mine Administration を発足せしめ、この炭鉱を再稼働させるに至つた。この当時の埋蔵量は 3,000,000 ton とみられていた。

1961 年に米国の援助により実施された調査によると、少くとも 12,000,000 ton の埋蔵量があるものと推定され、さらに最近における調査では 25,000,000 ton の埋蔵量があるものと推定されるに至つている。

この炭鉱の操業は 1959 年に国営企業 Regie des Mine de Charbon de Nong Son が発足するにおよび本格化するに至つた。

当炭鉱の出炭状況および石炭の輸入状況は第 43 表の通りである。

〔第 43 表〕 Nong Son 炭鉱の出炭量および石炭輸入状況

年 度	出 炭 量 ( ton )	輸 入 量 ( ton )
1958	20080	67880
1959	19928	44306
1960	27311	10658
1961	57350	5267
1962	71002	15513
1963	104099	8090

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963, USOM to Vietnam

Nong Son 炭の炭質は無煙炭で、発熱量最高 7000 Kcal / kg, 灰分 30% 程度であるといわれている。この石炭の工業原料としての利用のためには、さらに調査研究を実施すべき面もあるといわれているが、後述するように、Nong Son 炭鉱を中心とする An Hoa - Nong Son コンビナートの造成が計画され、火力発電、肥料その他

石炭化学工業の開発が進行中であり、この国の経済上最も重要な要素となることが期待されている。

(j) 石 油

南ベトナムにおける石油資源の賦存は現在のところ発見されておらず、全量を輸入しているのであるが、輸入会社は米国の Shell, Caltex および Standard Vacuum Oil Co. の 3 社である。

石油および石油製品の輸入状況は第 4 4 表の通りである。

〔第 4 4 表〕 石油および石油製品の輸入

年 度	輸入額(1000USドル)	輸入量 ( ton )
1 9 5 8	1 6 0 7 3	4 3 0 2 0 2
1 9 5 9	1 7 7 5 2	5 0 0 2 5 8
1 9 6 0	1 7 1 6 8	4 9 0 6 9 4
1 9 6 1	1 7 5 1 7	5 6 0 6 2 4
1 9 6 2	1 7 5 8 5	5 6 0 9 3 5
1 9 6 3	1 9 4 4 4	6 3 2 4 1 3

〔出典〕 Annual Statistical Bulletin, 1963,  
USOM to Vietnam

ところで、前述のとおり、第 2 次 5 ヶ年計画において精油所の建設を計画し、現在米国の Shell および Esso 両者により、Saigon の北方約 300 Km の Nhatrang に精油所の建設準備中であり、第 2 次 5 ヶ年計画の期間 ( 1962 ~ 1966 ) 中に竣工の予定である。この精油所は 1968 年の全石油製品需要を充足すべく計画され、1日 24,400 バレルの原油処理能力をもつ予定となつている。

(k) 工業用水

南ベトナムの水資源は比較的豊富であり、工業用水の取得に関する重大な問題はないものと考えられる。すなわち、内陸部に Dong Nai 河水系があつて Saigon 近郊を経て南支那海に注いでおり、東海岸にも若干の河川があつて、この地域に考えられている工業地帯における工業用水の取得にも左程の困難はない。

Saigon の水道計画 ( Saigon Metropolitan Water System ) 一第 2 次大戦後数年間に Saigon の人口は約 3 倍となり、水の不足は重大な問題であつた。

1880 年以来、Saigon - Cholon 地域における用水はすべて地下水に依存してきたのであり、地下水による水の使用量は最高 185,000 m<sup>3</sup>/日程度であつたと推定されるが、もはや増加需要を賅うことは不可能となつたといわれる。

現在工事中の Dong - Nai 水道プロジェクトはこの首都地域における水不足を緩和すると同時に工業用水をも供給し得るものである。

この計画は、Dong - Nai 河から取水し、市内に供給するもので、Thu Duc に浄水所が設置される。建設費は 18000000 US ドル (DLF) および 100000000 ピアスターである。主パイプラインは 2.0 m φ で 500000 m<sup>3</sup>/日の水を供給することができ、この水の一部は Bien Hoa 工業地帯に供給される。

## 2.3.2 労働

南ベトナムには、比較的低廉な賃金により十分な労働市場があることは、工業開発のための 1 つの有利な条件である、ということができる。南ベトナムにおける教育の普及は可成り高く、その国民性は熟練労働者としての訓練が容易である。

全労働人口は 6475000 人で、現在その大部分は農業 (84.2%) および漁業 (3%) に従事している。現在約 322000 人が製造業および手工業、建設業、輸送業、通信業およびその他公共事業に従事しているといわれている。

既に労働法規が制定されており、多くの企業において労働組合が組織されて、最低賃金、病気休暇、休暇、健康保険、良好な労働条件等に関して労使間の協定がなされている。

しかしながら、現在の戦乱は労働問題に対する影響をなせしめず、業種によつて既に男子若年労働者の取得に困難を訴える企業もあり、現在のところ主たる技術者は外国 (主として台湾) から招聘しているが、将来のための工業技術の培養上可成りの影響を及ぼしているものと考えられる。また、一般に労働争議がはげしく、企業主としては労働法規の改正を望む声が強いはことは、企業の発展上マイナスの影響を及ぼしているものと考えられる。

このようなことから、今後の工業発展のためには、民政の安定、労働法規の適正化ならびに工業関係技術教育の振興が重要である。

## 2.3.3 工業開発促進のための施策

南ベトナムの独立以来、その経済的独立のために、独立当初の 2 年計画 (1955 ~ 1956)、第 1 次 5 年計画 (1957 ~ 1961) および現在実施中の第 2 次 5 年計画 (1962 ~ 1966) と逐次開発を推進していることおよびその内容の概要については既に述べたところである。

工業化促進の努力は、1957 年に「工業開発センター」(CDI) が設立され、1961 年には「ベトナム工業開発金融会社」(SOFIDIV) が設立されるに至った。これらは工業開発のための技術的指導と投融資を実施する機関である。

1958 年以来、国営の「ベトナム商業金庫」(Credit Commercial du Vietnam) が、長期産業金融の不足を緩和するための投資銀行としての役割を果たしてきたが、上記「ベトナム工業開発金融会社」(SOFIDIV) の設立後はこれに引継がれた。関税制度は、資本金および原材料の輸入に有利なように、また国内工業を育成するために或種の品

目の輸入を制限するように改められた。免税およびその他の便益を与える改正投資法は新規工業関係企業家にも拡張適用された。

また、最近においては「ベトナム工業地帯開発会社」(Societe Nationale Pour le Developpement des Zone Industrielles—SONADEZI)が設立され、その設立に前後して政府は発電力および輸送施設の増強を図り、新規水道施設の建設に着手し、Bien Hoaの工業地帯を造成した。また、開発の遅れている中部ベトナム工業を開発し、農業以外に何らみるべきものもないこの地域に約10万の工業労働人口をもたらすよう施策をとつた。すなわち、Quang NamのAn Hoa—Nong Sonコンビナート、Danang(Tourane)における近代的繊維工場およびQuang NgaiならびにTuy Hoaにおける2つの近代的砂糖工場の建設は、この地方の工業化に新しい時代を劃するものである。

以上のような工業開発のための努力の各段階において政府がとつた主要な施策について略述することとする。

(a) 「工業開発センター」(Centre de Developpement Industriel—CDI)の

設立

南ベトナム政府は、米、野菜、果実の増産、ゴム樹の植替えによるゴムの増産および北ベトナムから流入した余剰労働力の利用を目的とした農業開発2カ年計画(1955—1956)を立てた際、開発意欲を振興するための金融を行なう機関として「国家投資基金」(Fond National d'Investissement)を設立したのであるが、これを工業化の面でも合せ拡張強化されて1957年にこのような名称に改められ、政府資金200000000ピアスター(約60000000USドル)および米国の援助資金60000000USドルをもつて、1958年3月から活動を開始した。

早速1958年には繊維、医薬、時計組立等の業種に総額139000000ピアスターの投資を行なつた。1964年8月までの融資総額は977700000ピアスター、政府民間合弁企業に対する出資総額は384030000ピアスターに達している。

また、この「工業開発センター」は工業技術に関する指導および情報センターとしての役割をももっている。

(b) ベトナム工業開発金融会社(Societe Financiere Pour le Developpement de l'Industrie au Vietnam—SOFIDIV)の設立

上述の通り、工業開発促進のための機関として設立された「工業開発センター」(CDI)は、既存工業の拡大ならびに近代化および新規工業の創設のための主要な公的信用源および技術的援助機関としての役割を果すものである。

この「ベトナム工業開発金融会社」(SOFIDIV)は、1961年11月に設立

されたもので、「工業開発センター」(CPI)を援助することを第1の目的とし、私企業、新規企業のための長期融資を行ない、また投融資を通じて直接企業参加する等により、さらに幅の広い活動をする事となつたもので、換言すれば工業開発銀行と持株会社としての2つの役割を果すものである。

資本金は400000000ピアスター、払込資本200000000ピアスターであり、出資者は「ベトナム商業金庫」(Crédit Commercial du Viet Nam)、「アジア、フランス銀行」(Banque Francaise de l'Asie)、「仏支銀行」(Banque Franco-Chinois)その他合計10行で、なかでも大口出資者は「ベトナム商業金庫」(Crédit Commercial du Viet Nam)である。銀行共同出資の200000000ピアスター以外は1961年に設立された「ベトナム、アメリカ民間企業開発基金」(Viet Nam American Private Enterprise Development Fund)からの200000000ピアスターの融資による。

金利は、3年もので6.5%、7年もので7%となつており、融資は機械設備および原料の輸入、建設費を対象としている。

(c) ベトナム工業地帯開発会社 (Société Nationale Pour le Développement des Zone Industrielles—SONADEZI) の設立

「工業開発センター」(CDI)とSaigon 港湾当局との協同により工業開発の立地的調整に当てるために、最近「ベトナム工業地帯開発会社」(SONADEZI)が設立された。

Bien Hoa工業地帯の開発が、その当初の目的ではあるが、その経済的目的は広く次のように要約することができる。

すなわち、(1)現在Saigon—Cholon 地域に密集している各種工業を疎開させると同時に、地方住民の就労のための都市集中を緩和すること、(2)適切な産業下部構造(金融機関、輸送施設、水、燃料、電力等の公共事業、労働等)に不可欠なすべての施設その他をよく区画された工業地帯に集め、これらの施設その他を関係工業に便利な地点に配置すること、(3)各種工業を国の広範囲に散在させるよりも、数地帯に集中させて「工業開発センター」(CDI)その他の技術的、財政的援助をより効果的に、またより容易にすること、等である。

1960年以來の南ベトナムの工業化は、Thu Duc, Bien Hoa および An Hoa の開発計画をもつて始まつたのであり、既に前二者は電力、セメント、繊維、製紙、化学工業の中心となつている。

Bien Hoa工業地帯—Bien Hoa工業地帯は、Saigonの北東24 Kmに位置しており、その西側はDong Nai河に面し、東側はSaigon—Bien Hoa間の4レーンの新国道に面している。この地域は電力、輸送工業用水の面でも好適の工業地帯である。すなわち、電力はDa Nhimの電力は勿論現在建設中のThe Duc火力発電所の電力



が、66 kV の送電線により供給され、工業用水は現在建設中の Saigon Metropolitan Water System から供給され、輸送の面では Saigon 港まで水路が開けている。

3 段階の開発計画が、「ベトナム工業地帯開発会社」(SONADEZI)により策定されているが、既に近代的工場がこの地帯に設立され始めており、現在の工業発展の速度からすれば3年以内にこの地帯は各種工場により完全に占有し尽くされるであろうと推定されている。

最近までこの地帯に新たに建設されている工場では、蓄電池製造の VIETNAM AUTOMOTIVE BATTERY MFG CO.、ケナフバッグの DOFITEX、可性ソーダ塩素の VICACO、製紙の VIETNAM PAPER INDUSTRY CO. 等がある。

An Hoa-Nong Son 工業地帯—この An Hoa-Nong Son 工業地帯は、Saigon から北へ約 500 km の距離にあり、Nong Son 炭鉱の無煙炭を利用して肥料、その他の石炭化学工業を開発すべく計画されたものである。

Nong Son 炭鉱は既述の通りこの国唯一の炭鉱であつて、この炭鉱から約 10 km の An Hoa に近代的工業地帯の開発が計画された主要な理由となつている。数百 ha の土地が既に整地されており、1966 年の終りには若干の工場が生産を開始する計画となつている。

Nong Son-An Hoa 間の鉄道が敷設されており、またフランスの援助により 22,000 kW の山元火力発電所が建設中であつて、この工業地帯における電力需要を賄うとともに近くの Da Nang (Tourane) および Hue 地方の電化に寄与することになつている。

工業生産工場としては、西ドイツの援助により年間生産量 42,000 ton の尿素、48,000 ton の硫酸工場、その他硫酸工場、石炭ガス化工場等が建設されることになつている。

